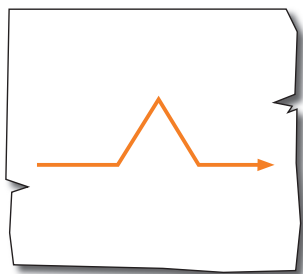


7 THE 7 FRAMES FOR LIFE

7つのワクワク枠

みんなのコンパス②

第7フレーム



木岬 さんぽ
KIMISAKI SAMPO

究極の意味を 見つけるんだ！

恋人^る瑠音^ね、おじいさん…と愛し合う
青年期さんぽのフルーツフル果実物語

SAMPO FRUITS



みんなのコンパス②



プロローグ

202

だいがく ねん め しょ か
大学2年目の初夏——

ぼく いらは、また いっしょ に、おじいさんに 会いに 岬へと 向かった。

それまでの 発見で 溜音は 十分満足 していたようで、「これらが 究極の意味かもしれないね？♪」と言っていた。

もちろん、それまでの 発見も、とてもよい 発見だ と思った。

でも、内心——

これらの意味に、あのおじいちゃんが たり着けなかったとは 考えにくい ではないか？

そんな気がして、僕は 物足りなさを感じていた。

「ねえ、この急な坂って—— ハア、ハア… 何度来ても、やっぱり、きつくてイヤだね。イヤなっちゃう～」坂を上りながらの彼女。

「“イヤイヤ”言うなって——。よけいイヤに思えてくるだろ？」

と僕。

「だって、イヤなんだもん。ハア、ハア…」

「ちょっと休やすもうか？」

「ううん、大丈夫だいじょうぶ。ありがとう。ハア、ハア…」

思ったんだけどさあ。こんなに坂さかがきつくてイヤなのに、それでも坂さかを上のぼるっていうのは—— おじいさんに会あいたい気持ちきもちが、急きゅうな坂さかを上のぼるのがイヤという気持ちきもちより、まさっているからよね？

ハア、ハア…」

「そうだね。——うん。人生じんせい、“100%好きす”とか“100%いい”とかだけで成なり立たっているとは限かぎらないんだね」

「ホント、微妙びみょうなことってあるよね。ハア、ハア…」

実際じっさいの人生じんせいでは——。ハア、ハア…」

「——確たしかに、好きすキライ、よい悪いわる… それぞれ微妙びみょうな比率ひりつかんけい関係かんけいで成せい立りつしているときもある。だから、ときまよに迷まよったり躊躇ちゅうちよしたりもするし—— ときうごに動うごきがとれなかつたりもする」

「そうね。ハア、ハア…」

「それでも、ときおもには、思おもいきつて何なにかのアクションを取とること、その結果けつにおうあらべつとのアクションを取とること… が必要ひつようになつたりして——」

「——ええ、そうね。ハア、ハア…」

坂さかを上のぼりきると——

なだらかな下くだり勾配こうばいの先さきに、キラリがみ見みえた。

その認にん識しきは、それまでの僕ぼくらの疲つかれを、一瞬いつしんで吹ふき飛とばしてくれ
た。さわやかな海風うみかぜとともに——

203

ふたりで駆け下りた先に待っていたキラリの正体は、1本のピン
 だった。——手紙？

その中身は、1枚の手紙と1枚の図だった。

まご まご きみ
 孫 or ひ孫のような君へ

また来てくれて、ありがとう。

おまえさんが、これを読んでくれておる頃、わしは航海の
 ま さいちゆう ちかごろ こうかい
 真っ最中のはずじゃ。近頃、航海に、はまってしまったのお。

きゅうきょく いみ
 究極の意味が、わかったかどうかじゃって？

それは、もう一枚の図が教えてくれるはずじゃ。

けんとう いの
 健闘を祈る。

それじゃ。げんき
 元気な。

くれぐれも、かわいひかのじょ
 かわいい彼女にもよろしく。

しあわ い
 幸せに生きるんじゃぞ。

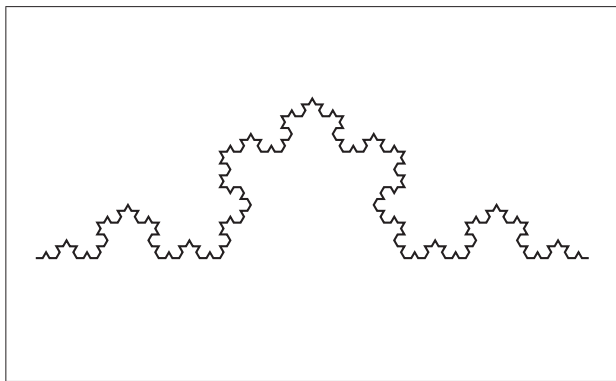
みさき
 岬のおじいさんより

音楽フェードアウト ♪航海 Voyage

「フフッ♪ かわいい^{かのじょ}彼女だって——」 ^て照れる^{るね}溜音。

僕は、もう1枚の図を広げてみた。

ランプベリーののように、のぞき込む^こ溜音——。



「不思議^{ふしぎ}な形^{かたち}——」 ^{かのじょ}彼女がポツリと^{くち}口にした。

「ああ」 ^{たし}確かに不思議^{ふしぎ}だった。——なんだこりゃ？

でも——

このとき、僕は、とてもワクワクしていた。

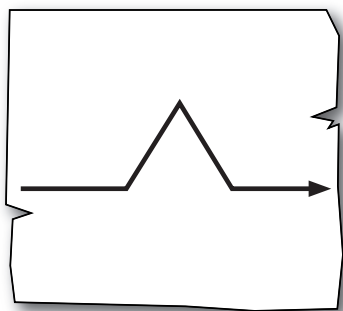
このナゾを解きたい！ 究極^{きゅうごく}の意味^{いみ}を見つけるんだ！

音楽——テーマ曲イン

♪美しき自然 Beautiful Nature

タイトル流れて。

第7フレーム



204

その熱意とは裏腹に、何の成果も得られないまま、とうとう夏休みに入った。

夏休み3日目、街の書店へ向かって一緒に歩いている溜音と僕。

「究極の意味——」 僕のつぶやき。

「もう、ずっとそればかり。フツッ♪」 溜音のフォロー。

彼女は相当あきれていたらしい。

でも—— 実は、溜音への誕生日プレゼントを計画していた。

そのために近くのスーパーでアルバイトをさせてもらっていた。

仕事内容は、朝早く特殊なトラックで運ばれてきた牛乳やヨーグルト、スイーツやアイス、豆腐や納豆などの商品を店内の各コーナーに陳列することで—— それは“品出し”と呼ばれていた。

本屋に着いた。

「じゃあ、こっちは、まず新刊書コーナーや雑誌コーナーあたりを見たら、そのあと詩集コーナーに行っているね」と溜音。

「了解。こっちは、いつもの場所に行っているよ」

いつもの場所—— 専門書コーナーに僕はたどり着いた。

生命科学—— 分子生物学、細胞生物学、分子発生生物学、分子遺伝学……

——何か、いい本がないかなあ。

しばらくの間、平積みされた本の表紙のタイトルたちを眺めた。

それから、気になる一冊を見つけた僕は、その本に右手を伸ばした。すると、その最中に、突然、左腕がグイと引っぱられた。

！？ 見ると、そこに瑠音が立っていた。

「え？」 思わず疑問の声を上げる僕。

「いいから来て。こっち——」 雑誌コーナーまで僕の手を引いた
彼女は、そこにあった“現代用語事典”の最新刊を手にとると、ペ
ラペラとめくり始めた。あるページを開くと注意を促した。

「ほら、見て」

その瞬間、僕は目を大きく見開いた。

「あっ！」 思わず驚きの声を上げた。

そこには、おじいさんの手紙に添えられていたあの図形が、そっ
くりそのまま載っていたのだ。

それは、“フラクタル”の項目にあった。

「フラクタル——」・・・「どうやってこれを——」

「私、ふと、ある事柄について試しに調べてみたくなって、ペラペ
ラをめくっていたの。そしたら、これが、いきなり目に入って——」

「何について調べていたんだい？」 思わず彼女に尋ねた。

「——。フラ—— ダンス？」 彼女は、気恥ずかしそうに告白した。

「——瞬間—— 瑠音が、ほんわりとフラダンスを踊っている姿が、心
に浮かんだ。

「——」・・・「——あ、ありがとう」 でかした！

205

瑠音るねにしてみれば、“火ひに油あぶらを注そそいだ”ことになるのだろう。

フラクタル——

そのキーワードとの出で合あいがきっかけとなり、フラクタルと関連かんれんする文献ぶんげん——コッホ曲線きよくせん、自己相似性じそうそうじせい、カオスふごぎつげい、複雑系ひへいこうかい、非平衡開放系ほうけい、自己組織化じこそしきか、進化しんか、脳科学のうかがく、神経系しんけいけいの可塑性かそせい、認知科学にんちかがく…などのキーワードを含む文献ぶんげんを、次々と読み進めることとなった。

この“自分の視野じぶんしやを広げる読書体験ひろどくしょたいけん”は、いわば“マイ・ブックサーフィン”だった。

それは同時に、“人類どうじの叡智じんるいの森えいちの果実もりたちを探索かじつする旅たんざく”でもあった。僕は、そのフルーツ探索たんざくの旅たびに熱中ねっちゆうした。のめり込んだ。7つのワクワクわく枠ていきようが提供もしてくれるコンパスもつづをしっかりと持ち続けながら——。

瑠音るねは、そんな僕ぼくを応援おうえんしてくれる一方で、「無理いっぼうしないでね」と僕むりの健康けんこうのことを気遣きづかってくれた。

でも——

ああきふかが深まりつつあった頃ころ、体調たいちゆうを崩くずしたのは、彼女かのじよの方ほうだった。

音楽イン ♪秋 Autumn 206 に続く

206

「ゴホッゴホッ。バカね。自分の方こそ、健康に注意しなさいって感じよね？ 試験が重なってストレスフルだったから、なおさら。試験が無事済んだのは、よかったけれど——」と溜音。

とにかく僕は看病した。夕方、彼女のアパートで——

「あなたに、うつしちや悪いわ」と言って、初果陽家秘伝の水で濡らしたティッシュを挿んだ加湿マスクを着用しながらベッドで横になっている彼女と、「私から、うつされませんように」と言われて同じ加湿マスクを着用させられながら、そばのイスに座っている僕。

「あっちの方は、どう？ ——フラ、クタル？」彼女が口を開いた。

「ああ、なんとか—— っていうか、今は、それどころじゃないだろ？ 今は自分の体のことを心配しているんよ」

「——はーい。アハッ♪ ありがとう」

ピピッー、ピピッー。体温計が鳴った。

体温計を腋の下から取り出して確認した彼女は言った。「36度8分。大したことなさそうで、よかったあ」

「まずは一安心だね。——まあ、でも、もうしばらく休んでいた方がいいと思うよ」と僕。

「——ええ、そうね。——。でも——」

「ん？ どうしたの？」

「うん。一安心したら、お腹ペコペコ度 Max 状態？」

ずっと食欲がなかったから、ここしばらく食事らしい食事ほとんど摂ってなくて——」

「ええ！？」

音楽フェード・アウト ♪秋 Autumn

207

それから、誕生日が迫っていた、お腹ペコペコ度 Max 状態の溜音に、特製バースデーパンケーキを提供するために、フルスピードで台所で格闘した。

「あっちい！！」 急いで指を水道水で冷やした。

「——大丈夫？」 ベッドからの彼女の声。

「大丈夫、大丈夫。余裕さ。アハッ。——決して見に来ないんよ。

そのまま休んでいるんよ。できあがったら、すぐ知らせるから」

「ええ、わかったわ。——なんだか『鶴の恩返し』みたい」

そして——

「ジャン！ 堂々の完成！♪」 そう言いながら、できたての“アイスクリーム・オン・フルーツ・イン・ヨーグルト・オン・パンケーキ・フォー・溜音”を、彼女が待っているテーブルまで運んだ。

「うわー、おいしそう♪」 マスク越しの、笑みあふれる溜音の顔。

「だろだろ？」

——バナナ、みかん、いちご、りんご、ブルーベリー、アイスクリーム、ヨーグルト、牛乳、卵、ホットケーキの素… あらかじめバイト先のスーパーで買って準備しておいた材料に、彼女のアパートにあった材料を適度に加えて作ったケーキだった。

溜音は、テーブルの上のケーキをまじまじと見つめ続けた。

なぜか食べようとしないう彼女を見て、僕は思わず尋ねた。

「どうしたんだい？」

「困った～。どうしよう～」

「何か、^{なに}苦手な^{にがて}食材^{しょくざい}が入^{はい}っていたとか？」

「ううん、そうじゃなくて、ケーキを^た食^くべたいのは^{やまやま}山々な^のよ。でも、ケーキを^た食^くべるためには^{はず}マスクを^{はず}外^{はず}さなければならなくて、それだと、あなたに^{こま}カゼが^{こま}うつるかもしれない。ああ、^{こま}困^{こま}った——」

「——アッハッハッ。^{だいじょうぶ}大丈夫。^{だいじょうぶ}大丈夫。^{なに}何も^{はな}話^{はな}さず^{もくもく}黙^{もくもく}々と^た食^くべればいいんだよ。こっちは^{つづ}マスクを^{つづ}着^{つづ}け^{つづ}続^{つづ}けているし」

「そう？」と^いい^いながら、^{ちい}小^{ちい}さく^{くび}首^{くび}を^るか^るし^ねげ^ねる^る溜^る音^ね。

「そう」と^いい^いながら、^{おお}大^{おお}きく^うう^なず^ずく^{ぼく}僕^{ぼく}。

「それでは—— ^{こと}お^ば言^{あま}葉^{あま}に^あ甘^あえて—— ^いい^ただ^きま^す」

^る溜^る音^ねは、^おお^ずお^ずと、^{はず}マスクを^{はず}外^{はず}すと—— ^{つか}フォーク^{つか}を^{つか}使^{つか}い、^{もくもく}黙^{もくもく}々と^たケーキ^たを^{はじ}食^{はじ}べ^{はじ}始^{はじ}めた。 ^{もぐもぐもぐ}モグモグモグ…

しばらくすると、^{かのじょ}彼女^{いそ}は、^つ急^ついで^{くち}マスク^{ひら}を着^{くち}けて^{ひら}から^{くち}口^{ひら}を開^{ひら}いた。

「——おいしーい！ とっても、おいしいよ！ ——シアワセ♡♪」

「よかった♪ “スペシャル・デラックス・アイス・オン・フルーツ・イン・ヨーグルト・オン・パンケーキ・フォー・^る溜^る音^ね” と^よ呼^よんでくれたまえ♪ アッハッハッ！」

208

ケーキを^た食^くべ^お終^{まんぞく}えて^る満^る足^ねして^かく^しつ^つろ^ろい^いで^いる^る溜^る音^ね with ^か加^か湿^{しつ}マスク
& ^{ぼく}僕^{ぼく} with ^か加^か湿^{しつ}マスク——。

「^よカゼ^よの^{ちりょう}予^{やくだ}防^{やくだ}や^{じゅうぶん}治^{すいみん}療^{すいみん}に^{きゅうよう}役^{きゅうよう}立^{てきど}つ^{てきど}こ^{てきど}と^{てきど}して、^{えいようせつしゆ}十^{ぜつしゆ}分^{ぜつしゆ}な^{てきど}睡^{すいぶんせつしゆ}眠^{すいぶんせつしゆ}や^{ほしつ}休^{ほしつ}養^{ほおん}、^て適^て度^て
な^{えいようせつしゆ}栄^{ぜつしゆ}養^{ぜつしゆ}摂^{てきど}取^{すいぶんせつしゆ}や^{ほしつ}絶^{ほおん}食^{ほおん}、^て適^て度^てな^て水^て分^て摂^て取^て、^て保^て湿^てや^て保^て温^て、^て手^て洗^てい^てや^てマ^てスク

の着用…は、もちろん挙げられるけど、さらに、ほどよくリラック
クスしてストレスをためすぎないことも挙げられるよ」と僕。

「そう聞くわよね。それって、どうしてなのかしら？」と彼女。

「適度にストレスが解消されているおかげで、免疫細胞たちの働き
が、ほどよく保たれるからだよ。

それは、免疫細胞たちの数や性質がほどよく保たれるからだけで
なく、末梢の血流がアップして、それらの体の中の分布がほどよく
保たれるからでもある——」

「ふーん。——免疫細胞ってさあ、カゼのウイルスとかを、やっつ
けてくれるんでしょ？」

「そうそう、その通り。それらの免疫細胞たちは、いろんな種類で
構成されていて——協力し合いながら、カゼのウイルスとかから、
体を守ってくれているんだ」

「ウン——」

「だから、免疫力をほどよく保ってくれるような“過剰なストレス
の解消”なら、どれもカゼの対策として有効だと思うよ」

「例えば？」

「例えば、もし疲れてヘトヘトだったら、なおさら、十分な睡眠や
休養が有効だろうし——もし大好きな趣味を楽しみたいのを我
慢し続けて欲求不満がたまっていたら、その趣味を楽しむことが
有効だろうよ」

「つまり、個人差がありうるのね」

「そう。そういう意味では、カゼ対策にも相性がありうるんだよ」

「——ウン」

「——そうそう、もし、^{かど}過度の^{くうふく}空腹のせいで、フラフラしていたり、
^{ちから}力が出なくなっていたり… ^{たいちよう}体調がおかしくなっているならば、^{てきど}適度
 に^{えいよう}栄養を^{ほきゆう}補給することが^{ゆうこう}有効だろうよ」

「うん♪ ああ、おいしかったあ♡ 私、^{わたし}幸せ者^{しあわせもの}だわ。^{まんぞく}満足、^{まんぞく}満足」

「それから、これ——」 ^{ぼく}僕は^{ちい}ポケットから^{はこ}小さな^と箱を^だ取り出した。

「なあに？」

「ちょっと^{はや}早いけど、^{たんじうび}誕生日プレゼント——」 ^いそう言いながら、
 その^{ちい}小さな^{はこ}箱を^{かのじよ}彼女に^さ差し^だ出した。

「え？」 ^{かのじよ}彼女は、^{おどろ}驚きながら^う受けとった。「——^{なか}ねえ、^み中を見ても
 いい？」

「ああ、もちろん」

209

^る瑠音は^{はこ}箱を^あ開けた。

その^{なか}中から^{かお}顔をのぞかせたのは、^{まる}丸みを^お帯びた^{きんぞく}金属の^{りんかく}輪郭に、^{あわ}淡
 い^{いろ}ピンク色の^{ほうせき}宝石がはめ込まれている^{ちい}小さなペンダントだった。

「うわ～、かわいい～。 ——ありがとうございます。うれしい」

「——ごめんよ」

「え？ ^{なに}何が？」

「——。だから—— ^{しけん}試験だけでなく、^{ぼく}僕のせいもあって、^すストレ
 スフルさが^{じよちよう}助長されて—— そのせいで、^{かぜ}カゼをひいてしまったの
 かなって^{おも}思ったから」

「——」

「最近、確かに“究極の意味”探しに夢中になりすぎて、きちんと力になってあげられなかったような気がする。こっちは力をいっぱいもらっていたのに。——だから、ごめん」

しばらくの間、瑠音は視線を外していた。

かと思うと、口を開いた。「——フッフ♪ お互い様よ」

「え？」

「私も、あなたから、いっぱい力をもらっていたわ。あなたの存在が、つらい試験勉強を乗り越えるための心の支えになっていた——。有意義なことに熱中して、少年のようにイキイキしているあなた。そんなあなたが—— 好き」

「——」 . . .

「早いとこ、発見しちゃって？ 究極の意味をサクッと見つけて、私を早く安心させて？ 私が、いっぱい、いっぱい笑ってられるように。——アハッ♪ クヨクヨしているより、気持ちよく笑っている方が、免疫力って、ほどよく保たれているんでしょ？」

「ああ、まあ——」

「——ああ、スペシャル・パンケーキおいしかったあ！ こんなに幸せになれるのなら、年に10回くらいカゼひきたいよ〜♪」

「——ってというか、このパンケーキには、パースデーケーキの意味があるんだぜ」

「え！？ 誕生日がくるだけでも、このケーキを食べられるの？

だったら、年に11回も食べられるってことよね？ やったあ♪」

「よ〜し、こうなったら潔く腕によりをかけて、ケーキを作りまく

るぞ〜！」^{きあ} 気合いを入れるしぐさをしながら^い言った。

「アハハハッ！♪」 とびっきりの^え笑みがこぼれているのがマスク
越^こしでも、はっきりわかった。

210

音楽イン ♪ Reconstruction

それから^{ぼく} 僕は、^{だいがく} 大学の^{あいま} ノルマの^ぬ 合間を^{しら} 縫^{しら}って、^{しら} 調べて、^{しら} 調べて、
^{しら} 調べて… ^{まな} 学^{まな}んで、^{まな} 学^{まな}んで、^{まな} 学^{まな}んで… ^{ほりさ} 掘^{ほりさ}り下^さげて、^{ほりさ} 掘^{ほりさ}り下^さげて、
^{ほりさ} 掘^{ほりさ}り下^さげて… ^{かんが} 考^{かんが}えて、^{かんが} 考^{かんが}えて、^{かんが} 考^{かんが}えて… ^{かんが} 考^{かんが}え抜^ぬいたんだ。

^{ほん} 本^や屋^{ほん}さんの本——

^{としよかん} 図^{ほん}書^{ほん}館の本——

ノート——

^{ようし}メモ^し用^し紙——

パソコン——

…

^{かつよう}を^{かんが}活^{かんが}用^{かんが}しながら^{かんが}考^{かんが}え——

^き着^{かんが}替^{かんが}えながら^{かんが}考^{かんが}え——

^た食^{かんが}べながら^{かんが}考^{かんが}え——

^{ある}歩^{かんが}きながら^{かんが}考^{かんが}え——

^か書^{かんが}きながら^{かんが}考^{かんが}え——

^ゆ湯^{かんが}ぶねにつかりながら^{かんが}考^{かんが}え——

シャワーを^あ浴^{かんが}びながら^{かんが}考^{かんが}え——

^{じょう}ベ^にッド上^にで、^{あえ}日^む中^む、^{かんが}仰^{かんが}向^{かんが}けになりながら^{かんが}考^{かんが}え——

ベッド上で、夜中、入眠しながら考え——

ベッド上で、起床前、朝の陽光を浴びながら考え——

…

クリスマスが過ぎ——

お正月も過ぎ——

バレンタインデーも過ぎ——

そのまま雪解けの季節も過ぎ——

そして、桜が咲き始める季節の、ある日曜日——

ついに、ナゾが解けたと思えるほどの成果に達したんだ。

音楽終了 ♪ Reconstruction

その成果に達した喜びというか、気持ちよさというか、達成感と
いうか… その感動は半端じゃなかった。

音楽イン ♪ Joy of Life

自転車を飛ばし——

真っ先に、溜音のアパートに、たどり着いた。

「ついにナゾが解けたかもしれない！ すっげえ、うれしい！

ハア、ハア…」

「ええ？ すごーい！ ねえ、ねえ、私にも早く答えを教えて？」

「ああ、もちろん。ハア、ハア… ちょっと待ってくれ。ハア、ハア
… ——あれえ？」 ヨロリとバランスをくずした僕は、そのまま、
ひざまずいてしまった。

「大丈夫？」

「ああ、大丈夫、大丈夫！

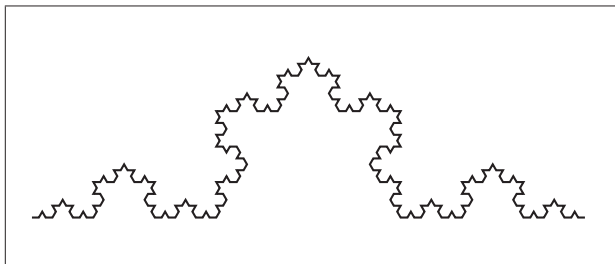
——自転車を飛ばしすぎちまって。アッハッハッ！」

音楽 ♪ Joy of Life 211 に続く

211

ひといき
一息ついてから、その成果の披露を始めた。

まず、おじいさんにもらった図の説明から——。



「この図形はコッホ曲線と呼ばれているんだ。これはフラクタルの一種で、フラクタルとは“自己相似性”を持つ存在のことさ」と僕。

「——自己、ソウジセイ？」と溜音。

「そう。自己、相似性」

「——自分で自分を、きれいに掃除する性質？」

「アッハッハッ。」

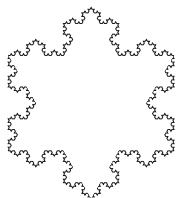
その掃除でなくて、“お互いに似ている”という意味の相似さ。

つまり、自分の内側の部分と外側の全体が、お互いに似ているという性質こそが、自己相似性なんだよ

「——へエー」

「この“自己相似性”を持っている例は、自然界に、いっぱいあるんだよ。例えば、雲のモクモク、海岸線のギザギザ、山のデコボコ、川や樹木の枝分かかれ、雪の結晶…。どれも自分自身の中の部分と、自分自身の外側の全体が、お互いに似ているのさ。

例えば、このコッホ曲線を3つ組み合わせてできるコッホ雪片も、どことなく本物の雪の結晶っぽいつしょ？」



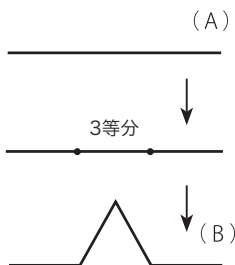
「本当だ。不思議——」

「これが本物の雪の結晶っぽいのは、自然界にある本物の雪の結晶が“自己相似性”を持っているからこそなんだ」

「へえー」

「この自己相似性は、コッホ曲線の作り方を見れば、より理解しやすくなるはずだよ」

僕はメモ用紙を広げて、ペンを持った。「まず、1本の線があるとする(A)。次に、その線を3等分し、その真ん中の線分だけを2本にして最終的にトンガリ山を作る(B)」



「あっ！ 第7フレームと似ているね？」

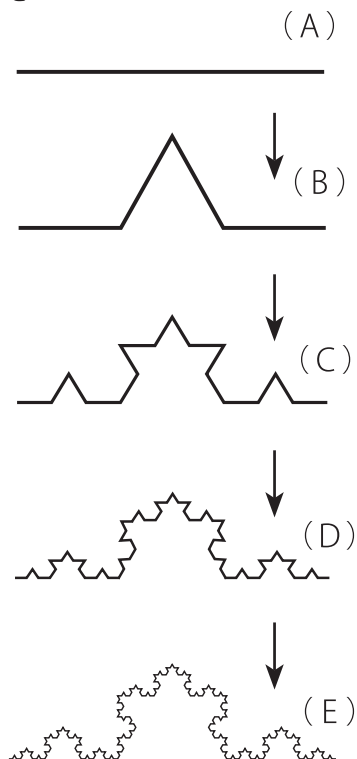
「そうそう。そうなんだ。」

それで、コッホ曲線を作るためには、この作業をずうーっと繰り返す

かえ
返せばいいんだよ」

「ずうーっと？」

「そう。ずうーっと——



——ほら！ ここまで来ると、おじいちゃんに、もらった^ずおな
じになる」

「あつ、^{ほんとう}本当だ！」

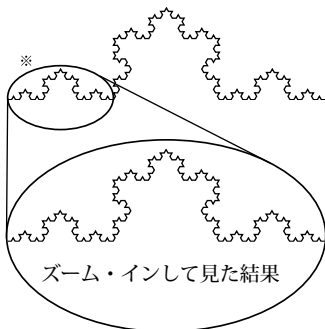
音楽 ♪ Joy of Life 212 に続く

212

「このようにして、フラクタルの一種であるコッホ曲線いっしゆ きよくせんができてい
るおかげで、不思議ふしぎでおもしろいことが起おこるんだよ」と僕ぼく。

「不思議ふしぎでおもしろいこと？」と瑠音るね。

「そう。想像そうぞうしてみたいほしいんだけど、
たとえば、この部分ぶぶんをズーム・インして、
詳しく見たとするよね？」図の左側ひだりがわの
一部いちぶ※を指ゆびで囲かこいながら言いった。



「うん」

「すると、あら不思議ふしぎ！

——そこにあるのは、元もとと同じ形おな かたちなのさ！」

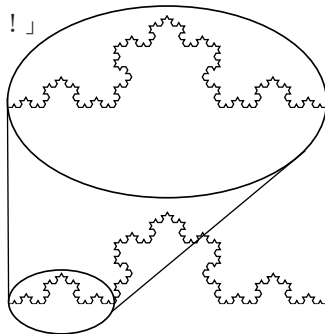
「うーん。——。——あつ、そうよ！

ずうーつと繰り返くえすんだもんね。

アハッ♪ おもしろい♪」

「だろだろ？ もちろん、逆ぎやくも成なり立たつ。

ある全体ぜんたいをさらにズーム・アウトして
大ざっぱおおざっぱに見ても、元もとと同じ形おな かたちになるよ」



「はあー！」

ズーム・アウトして見た結果

「で、このような性質せいしつ、“ある部分ぶぶんをズーム・インして見ても同じ形おな かたち、
ある全体ぜんたいをズーム・アウトして見ても同じ形おな かたち”という性質せいしつこそが、
自己相似性じこそうじせいの、より厳密げんみつな意味いみなのさ。

つまり、フラクタルとは、厳密げんみつには、このズーム・インしてもズーム・
アウトしても同じ形おな かたちがあるという意味いみの自己相似性じこそうじせいを持つていもる存
在ざいのことなのさ」

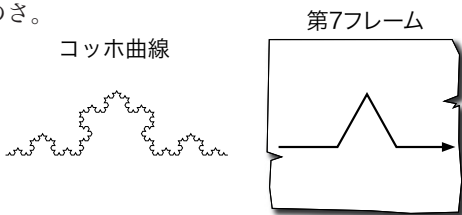
「ふーん。——そうすると、^{げんみつ}厳密には、このズーム・インしてもズーム・アウトしても^{おな かたち}同じ形があるという意味の自己相似性を持っている存在^{そんざい}のことであるフラクタルが、^{しぜんかい}自然界で、さまざま^み見つけられるのね？」

「そうさ。^{たと}例えば、^{くも}雲の^{かたち}モクモクの形。あの一^{いち}部を、ズーム・インして見ても、やっぱり^{どうよう}同様なモクモクの形がある。もちろん、^{さか}逆にズーム・アウトして見ても、^{どうよう}同様なモクモクの形。

^{たと}例えば、^{かいがんせん}海岸線の^{かたち}ギザギザの形。あの一^{いち}部を、ズーム・インして見ても、ズーム・アウトして見てもやっぱり^{どうよう}同様なギザギザの形がある。それは、^{やま}山の^{かせん}デコボコ、^{じゆもく}河川や^{えだわか}樹木の^{ゆき}枝分かれ、^{けつしよう}雪の^{おな}結晶…
どれも^{おな}同じなんだよ」

「へえー。フラクタルって、^{ほんとう}本当に、いっぱい見つけられるのね」

「そうだね。——それで、^{きよくせん}コッホ曲線と^{だい}第7フレームを^く繰り返^{かえ}し^{みくら}見比べたのさ。



そしたら、ひらめいたんだ。

きっと、^{だい}第7フレームも自己相似性を持っていて、フラクタル^{いっしゆ}の一種なのだろうって——。

それで、そのように^{かてい}仮定しながら、さまざま^{ちしき}な知識や^{ぶんけん}文献の内容、さまざま^{たいけん}な体験にあてはめてみたら、まさにそうだったのさ！」

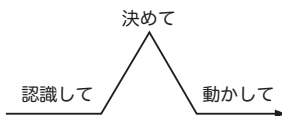
「ええ!？」

213

音楽イン ♪心地よき日々 Comfortable Days

「まずは、人間レベル——

それは、“認識して、決めて、動かして”などの3つのステップの流れ。大学1年生のときに僕らが一緒に、さまざま挙げたの例にあてはまるレベルのことさ。覚えている？」と僕。



「ええ、よく覚えているわ」と溜音。

「それで、ここからは、この“3つのステップの流れ”のことを、シンプルに“3ステップ”と呼ぶことにするよ。その方が、より正確で便利だけでなく、カッコいいから」

「フフッ。そうね」

「それで、第7フレームが、自己相似性を持っているフラクタルの一種であるということは、この人間レベルの3ステップからズーム・アウトして見ても、ズーム・インして見ても、同じような3ステップがあるってことなんだよ。

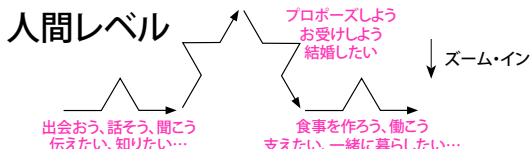
例えばズーム・アウトして見れば、そこにあるのは人間社会レベルの3ステップだね」

「人間社会レベル——」

「そう。——その、いい例の1つが、ふつうの結婚さ。

例えば、“まず、ふたりが出会って、お互いに知り合い、次に、お互いに賛成し合って合意に至り、その結果、実際に結婚して家庭を築く——” そのような3ステップのことだよ。

プチ・マップでは、次のようになるよ。

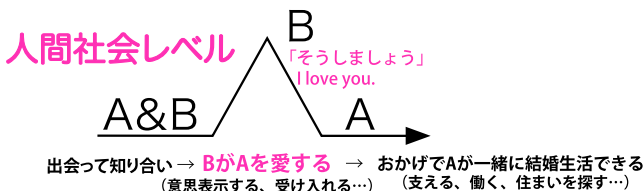
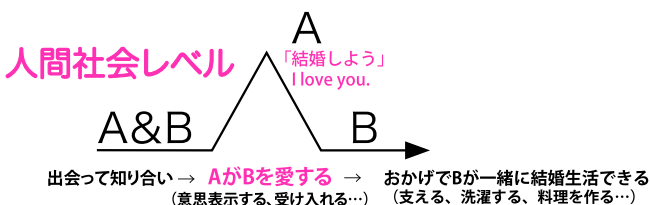


これだと、ときに周囲の賛成や反対が関わることも説明できる」

「ふうーん。

そうすると、人間社会レベルにおいても微妙な比率関係で繰り返されている様子を説明できるのね？」

「そうだね。ただ、そのような、やや複雑な説明ができる一方で、結婚の本質は、次の2つの単純な流れであり続けているんだよ」



「結婚は、お互い様なのね」

「そう。しかも、ここにあるのは、コンパルンクルの“ラブラブになつてね”とも関連している『Love - Love の関係』でもある」

「『Love - Love の関係』——」

「そう。この『Love - Love の関係』は、ありがたいことでもあるのさ。なぜって、人間関係は多様で、ときに片思いや一方通行のような『Love-No Love の関係』も、あるいは、ときに互いに嫌い合うような『Hate-Hate の関係』もありうるのだから。

そういう意味で、『Love - Love の関係』を築くことは、前に君が指摘してくれた“社会的なハードルを乗り越えること”にも相当しているんだよ。なぜなら、その本質部分は、例えば——

“貴校への私の入学を望みます。本校へのあなたの入学を望みます”

“貴社への私の就職を望みます。弊社へのあなたの就職を望みます”

“私のオリンピック出場を望みます。あなたのオリンピック出場を望みます”… のように理解できるから。

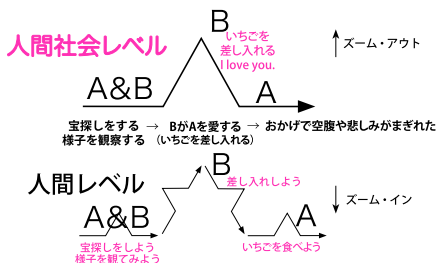
それに、『Love』だと少し大げさに思えるけれど、より一般的に、
“あいさつ、やさしさ、優しさ、配慮、いたわり、手伝い、励まし、応援、支
持、恵み、フルーツ…” を含む『For』の方向の言動を『Love』と
見なせる。だから、一般的な『For - For の関係』は、『Love -
Love の関係』であると見なせるのさ」

「ふーん。そうすると—— ほかにもいっぱいありそうじゃない？
『For』の方向の言動としての『Love』に基づいた人間社会レベル
の3ステップスって——」

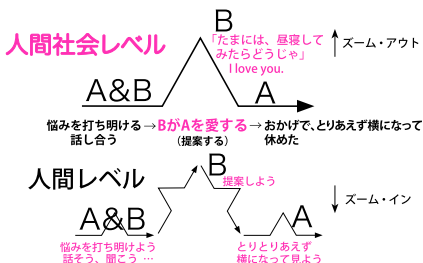
「そうなんだよ。いっぱいある」

214

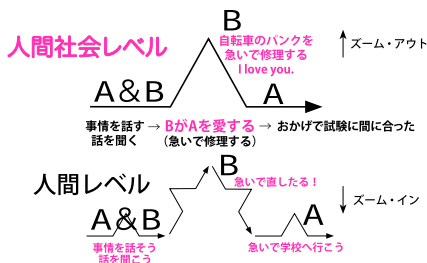
「例えば、おじいちゃんがいちごを食べさせてくれたおかげで、僕の空腹や悲しみがまぎれたとか——。



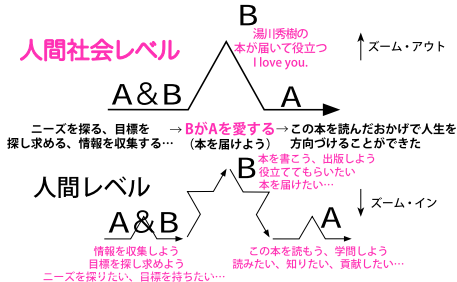
それに、おじいちゃんの“たまには昼寝してみたらどうじゃ”という提案のおかげで、とりあえず横になって休めたとか——。



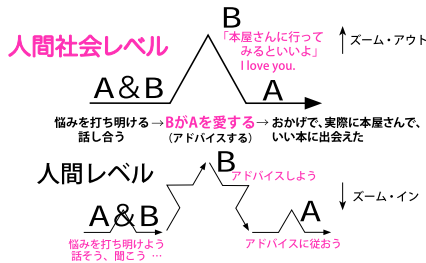
それに、自転車屋のおんちゃんがパンクを急いで修理してくれたおかげで、僕らが試験に間に合ったとか——。



それに、本を通じて湯川秀樹に出会えたおかげで、ライフ育ての方向づけができたとか——。

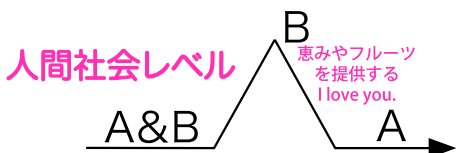


それに、“本屋さんに行ってみた方がいいよ”という君のアドバイスのおかげで、実際に本屋さんで、いい本に出会えたとか——。



このような「差し入れや提案、修理、書籍、アドバイス…」などの恵みやフルーツを介した流れも、『For』の方向の言動としての『Love』に基づく人間社会レベルの3ステップスだと言える」
 「『Love』——」 そうつぶやいた瑠音の頬が、淡い桜色に見えた。
 「——そう。この『For』の方向の言動としての『Love』は、本当に、さまざまあるのさ。

この意味で、世の中には、さまざまな愛があふれているのさ。
 たとえば、次のような例も挙げられる」



- ニーズを探る、情報を収集する → **BがAを愛する** → おかげで生活できる、助かる
 希望・事情を話す（聞く）… (恵みやフルーツを提供する) 楽しめる、元気になる…

- ニーズを探る、情報を収集する → **商品を提供する** → おかげで生活できる
 希望・事情を話す（聞く）… (農畜水産物、工業製品、お店…) おかげで生きられる…

- ニーズを探る、情報を収集する → **サービスを提供する** → おかげで通学・通勤できる
 希望・事情を話す（聞く）… (運輸、通信、レジャー…) おかげで電話できる
 おかげで楽しめる…

- ニーズを探る、情報を収集する → **ライフラインを提供する** → おかげで生活できる、
 希望・事情を話す（聞く）… (水道、電気、ガス…) おかげで生きられる…

- ニーズを探る、情報を収集する → **学問の成果を提供する** → おかげで便利な生活ができる、
 希望・事情を話す（聞く）… (科学技術、知恵…) おかげで助かる…

- ニーズを探る、情報を収集する → **情報を提供する** → おかげで知恵が得られる
 希望・事情を話す（聞く）… (TV番組、新聞、ネット、書籍…) おかげでよい選択ができる…

- ニーズを探る、情報を収集する → **作品を提供する** → おかげで元気になる
 希望・事情を話す（聞く）… (映画、ドラマ、舞台、ライブ 音楽、歌、詩、絵、写真…) おかげで楽しみが増える…

- ニーズを探る、情報を収集する → **教育を提供する** → おかげで能力が開花する
 希望・事情を話す（聞く）… (幼稚園、小学、中学、高校、 大学、専門学校… おかげで人生が育まれる
 入園・入学を許可する) おかげでチャンスが広がる…

- ニーズを探る、情報を収集する → **企業活動を提供する** → おかげで多くの人々が生活できる
 希望・事情を話す（聞く）… (社会に貢献する、雇用を創出する、 助かる、楽しめる、元気になる、おかげで
 人材(ヨリダー、マネージャー…)を採用し報酬 働ける、適切にリード・マネージできる、
 を支払う、利益を出しながら資金を返す) おかげで投資活動を継続できる…

こうじょう じてんしゃ つく かがたが わたし つうがく
 「工場^{こうじょう}で自転車^{じてんしゃ}を作^{つく}ってくださる方々^{かたがた}のおかげ^{かたがた}で私たち^{わたし}の通学^{つうがく}ライ
 フ^なが成^なり立^たつとか、果物^{くだもの}や野菜^{やさい}や穀物^{こくもつ}などを育^{そだ}ててくださる農家^{のうか}の
 方々^{かたがた}のおかげ^{わたし}で私たち^{しよくせいかつ}の食生活^なが成^なり立^たつとか、さまざま^{せいひん}な製品^{せいひん}や
 サービス^{ていきよう}を提供^{かたがた}してくださる方々^{かたがた}のおかげ^{わたし}で私たち^{わたし}の豊^{ゆた}かな生活^{せいにかつ}
 が成^なり立^たつとか… ふく だれ めぐ う と
 を含^かむ誰^かかの恵^{ほうこう}みやフル^{げんどう}ーツ^りを受け^{れい}取^いってエン
 ジョイ^もする過^{にんげんしゃがい}程^{れい}が、どれも『For』の方向^{れい}の言^{れい}動^{れい}としての『Love』
 に基^もづく人間^{にんげんしゃがい}社会^{れい}レベル^{れい}の3^{れい}ステッ^{れい}プス^{れい}の例^{れい}だよって^{れい}ことは—

世の中^{よ なか}には、本当^{ほんとう}に、さまざま^{あひ}な愛があふれているのね」

「その通り^{とお}さ。僕^{ぼく}らも、恵^{めぐ}みやフルーツという『For』の方向^{ほうこう}の言動^{げんどう}としての『Love』を、いつか世^よの中^{なか}で与^{あた}えられるはず^{はず}なんだけどね。

——って^ういか、僕^{ぼく}らは、恵^{めぐ}みやフルーツなどの『For』の方向^{ほうこう}の言動^{げんどう}としての『Love』を^{あた}与えているときがある^{ある}んだよ。

受け取^うると同時^{どうじ}に——。すでに——」

「え？」

音楽 ♪心地よき日々 Comfortable Days 215 に続く

215

「例えば、お店^{たと}に並^{みせ}んだ果物^{なら}や野菜^{くだもの}や穀物^{やさい}を、お金^{こくもつ}を支払^{かね}って買^しうことは、めぐりめぐ^かって、農業^{のうぎょう}を営^{いとな}んでくださ^{かたがた}る方^{のうさんぶつ}々、農産物^{うん}を運送^{そう}してくださ^{かたがた}る方^{みせ}々、それをお店^うで売^{かたがた}ってくださ^{めぐ}る方^{かたがた}々に、恵^{めぐ}みやフルーツ^{めぐ}に相当^なする何^{あた}かを与^{あた}えることにつなが^なっている——。

それは、例えば、お店^{みせ}に並^{なら}んだ「自転車^{じてんしゃ}、本^{ほん}、CD、ノート、鉛筆^{えん}、消しゴム…」を購^{びつ}入^けするときも同^{こうにゆう}じだよ」と僕^{ぼく}。

「あつ、そうか——。お金^{かね}は、いづれ新^{あら}たな「恵^{めぐ}み&フルーツ」の交換^{こうかん}に至^{いた}りうるから、お金^{かね}を支払^しって何^{なに}かを買^かうことが間^{かん}接^{せつ}的に恵^{めぐ}みやフルーツ^{あた}を与^{あた}えていることになりうるのね？」と瑠音^{るね}。

「その通り^{とお}さ。

いっ^{いっ}ほう^{ほう}で、すでに、恵^{めぐ}みやフルーツ^{そうとう}に相当^なする何^{なに}かそのものを直接^{ちよくせつ}与^{あた}えること^{あた}によって、僕^{ぼく}らは人間^{にんげん}社会^{しゃかい}レベル^{らい}の『For』に相当^{そうとう}する

『Love』をお返しできるときもある。

例えば、感謝、応援、支持、励まし、ファンレター、オマージュ、
 作品、知恵、アイデア、ヒント…を示すことも、恵みやフルーツ
 を直接与えることに相当しうと思うよ。

だから、恵みやフルーツに相当する何かを、将来それらと交換で
 きるお金を介して間接的に与えることは、人間社会レベルの『For』
 に相当する『Love』をお返しすることの一部にすぎない。

いずれにしろ、受けとると同時に、こちらからお返しする『For』
 の方向の言動としての『Love』についても、多々、例を挙げらる」

(右ページ図)

「つまり、私たちは、さまざまな形や言葉で、恵みやフルーツを
 え合っているのね。すでに——」

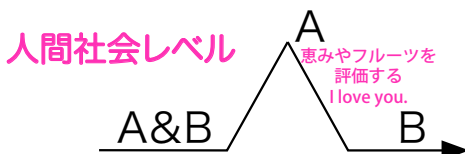
「そうさ。こういった恵みやフルーツの与え合いの関係こそが、人
 間社会レベルの『For』に相当する『Love』の与え合いの関係——
 恵み-恵みの関係、フルーツ-フルーツの関係、『For』-『For』の
 関係、つまり、『Love-Loveの関係』なのさ」

「アハッ♪ 相思相愛の関係は、ふつうの恋愛関係だけに限らない
 のね——」

「そうだね。しかも、片思いや一方通行も恋愛関係だけに限らない。
 ——だから、『Love-Loveの関係』を構築できるかどうかは、恋
 愛関係にとってのみならず、さまざまなフルーツや恵みを生み出し
 たり、提供したり…を含むあらゆる活動にとっても、存続するか
 どうかを決める重要なカギの1つなんだと思うよ」

「そうね。おもしろーい♪」

音楽フェード・アウト ♪心地よき日々 Comfortable Days



- 恵み・フルーツが世に出る → **AがBを愛する** → おかげで恵み・フルーツを再生産・再提供できる
 (お試し、体験、公開) (恵みやフルーツを評価する) おかげで経営を継続できる…
 口コミ、宣伝…)
-
- 恵み・フルーツが世に出る → **商品を購入する** → おかげで商品を再生産できる
 (お試し、体験、公開) (代金を支払う、感謝する、応援する、支持する…) おかげで経営を継続できる…
 口コミ、宣伝…)
-
- 恵み・フルーツが世に出る → **サービスを利用する** → おかげでサービスを提供し続けられる
 (お試し、体験、公開) (利用料を払う、感謝する、応援する、支持する…) おかげでサービスを継続できる…
 口コミ、宣伝…)
-
- 恵み・フルーツが世に出る → **ライフラインを利用する** → おかげでライフラインを提供し続けられる
 (お試し、体験、公開) (利用料を払う、感謝する…) おかげで経営を継続できる…
 口コミ、宣伝…)
-
- 恵み・フルーツが世に出る → **学問の成果を利用する** → おかげで新たな学問の成果を再提供できる
 (お試し、体験、公開) (特許料を払う、研究費を出す、感謝する、応援する、支持する…) おかげで学問を継続できる…
 口コミ、宣伝…)
-
- 恵み・フルーツが世に出る → **情報を利用する** → おかげで新たな情報を提供できる
 (お試し、体験、公開) (利用料を払う、視聴率に反映される、感謝する、応援する、支持する…) おかげで経営を継続できる…
 口コミ、宣伝…)
-
- 恵み・フルーツが世に出る → **作品を鑑賞する** → おかげで新たな作品を提供・生産できる
 (お試し、体験、公開) (映画、ドラマ、演劇、ライブ、音楽、歌、詩、絵、写真…を楽しむ、感謝する、応援する、支持する…) おかげで経営を継続できる…
 口コミ、宣伝…)
-
- 恵み・フルーツが世に出る → **教育を志望する** → おかげで新たな教育を提供できる
 (お試し、体験、公開) (園児、児童、生徒、学生…教育費の支払い、感謝する、支援する…) おかげで経営を継続できる…
 口コミ、宣伝…)
-
- 恵み・フルーツが世に出る → **企業活動を利用する** → おかげで新たな企業活動を提供できる
 (お試し、体験、公開) (人々が企業活動の利用料を払う、感謝する、応援する、励ます、投票する…おかげで経営を継続できる) おかげで企業が存続する…
 口コミ、宣伝…)
企業活動を支持する
企業活動を志望する
企業活動を指導する
企業活動に投資する
 (人々が企業活動の利用料を払う、感謝する、応援する、励ます、投票する…人材(能力、マンパワー)を届ける、就職を希望する適切にリード・マネジメントする、資金を投入する…)

…

…

…

216

「それにしても、^{ほんとう}本当に、いろいろあるね。

人間社会^{にんげんしゃかい}レベルの3ステップスって——」と^る増音。

「そうだね。いろいろある。しかも、この人間社会^{にんげんしゃかい}レベルの3ステップスは、ふたりだけのスケールから、^{なんじゅうおくにん}何十億人が関わるスケールまで—— いわば、ローカルな人間社会^{にんげんしゃかい}からグローバルな人間社会^{にんげんしゃかい}まで、^{せいりつ}どんなスケールでも^{ぼく}成立しうるよ」と僕。

「それはつまり—— プライベートな人間社会^{にんげんしゃかい}から^{ぜんちきゅうてき}全地球的な人間社会^{にんげんしゃかい}まで、^{かていぜいかつ}家庭生活、^{いくじ}育児、^{きょういく}教育、^{がくもん}学問、^{せいさん}生産、^{エンターテイメント}、^{サービス}サービス、^{きぎょう}企業、^{とうし}投資、^{ふくし}福祉、^{いりょう}医療、^{りつぽう}立法、^{しほう}司法、^{ぎょうせい}行政… を含む社会的な^{しゃかいてき}営みは、人間社会^{にんげんしゃかい}レベルの3ステップスの上で^{うえ}繰り^{ひろ}広げられているという意味で、^いどれも^{おな}同じってことなのね？」

「そうさ。——さらに、^{しゃかいてき}こういった社会的な^{いとな}営みのいずれにおいて、^{きみ}君が^{してき}指摘してくれたように、^{ようそ}さまざまな^{あら}要素が^{かか}新たに関わって、^{びみょう}微妙な^{ひりつかんけい}比率関係の上で^{うえ}繰り^く広げられることが^お起こりうる。

——^{たと}例えば、^{だれ}誰かさんの^{だいがくごうかく}大学合格とか？」

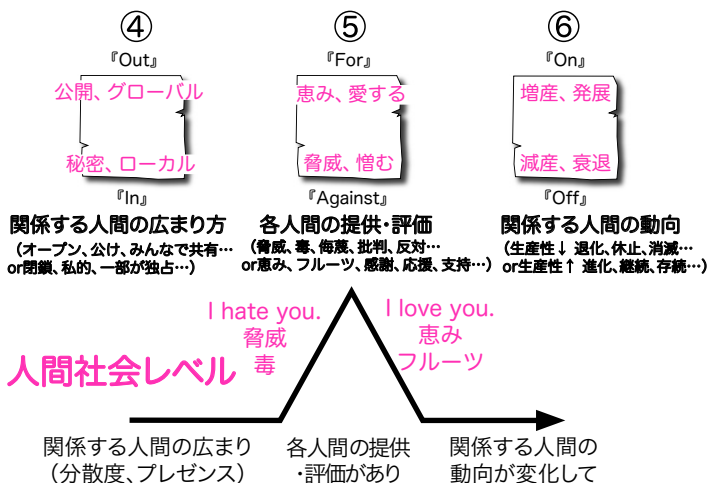
「——フッ♪ あれは、リアルな社会現象^{しゃかいげんしやう}の一例^{いちれい}だったのね」

「その通り！」

「そうすると—— ^{いつけん}一見^{ふくざつ}どんなに^み複雑に見える^{しゃかいげんしやう}社会現象も、^{てい}ある程度^ど、^{だい}第7^{せつめい}フレームで^{せつめい}説明^{せつめい}ついちゃうのかもね♪」

217

「第7フレームにおける、人間社会レベルの3ステップの意味は、第4フレームから第6フレームまでを考え合わせると、もっと、わかりやすくなるはずだよ。例えば、次のように——」と僕。



「——アハッ♪ 確かに、そうよね」と溜音。

「さらには、ある個人に着目するならば、次のようなことも言える。

ある個人は——

あるときは、

“話合ったり、知り合ったり、相談したりして情報収集する。

口コミやネット、広告などによって、何かを宣伝して世に広める。

就活したり、婚活したりして自身が世の中でデビューする。…”

という形で、第1ステップを担っていて——

あるときは、

“商品しょうひんやサービスさくひん、作品ていきょうを提供する。

商品しょうひんを買かったり、サービスりようを利用したり、作品さくひんを鑑賞かんしょうしたりする。

アドバイスおうえんしたり、応援たすしたり、助けたりして身近な誰かみ ちか だれを愛する。…”

という形で、第2ステップを支援さきしていて――

あるときは、

“商品しょうひんやサービスさくひん、作品ていきょうを提供されるおかげで生きる。

商品しょうひんを買かっていたり、サービスりようを利用りようしていたり、

鑑賞かんしょうしていただいたりはげを励みにしながら再び商品しょうひんやサービスさくひんや作品ていきょうを提供する。

アドバイスおうえんされたり、応援たすされたり、助けられたりふくを含めて、身近な人み ちかに愛あいされながら生きる。…”

という形で、第3ステップを受け持っている――

そのようなことが言えるのさ」

「へえー。つまり、ある個人こじんは、人間社会にんげんしゃかいレベルの3ステップの中で、その位置い ちを変へん化かさせるのね？」

「そうさ。これら1つ1つも、れっきとした“ライフかたのあり方”なんだよ」

「ええ、そうね♪」

218

「人間レベルからズーム・アウトすると見える3ステップスが人間
社会レベルだったけれど—— さっき言ったとおり、人間レベルから
逆にズーム・インすると見える3ステップスもあるんだよ」と僕。

音楽イン ♪春 Spring

「それは、なあに？」と溜音。

「うん。それが、細胞社会レベルの3ステップスさ」

「サイボウ社会？」

「そう。細胞とは、頭^{あたま}の先から足^{あし}の先までの全身^{ぜんしん}を構成^{こうせい}する基本単位^{きほんたんい}」
のことで—— 感覚細胞^{かんかくさいぼう}、神経細胞^{しんけいさいぼう}、筋肉細胞^{きんにくさいぼう}、免疫細胞^{めんえきさいぼう}など、お
よそ何百種類^{なんびやくしゅるい}に及ぶ細胞^{さいぼう}たちが、人間^{にんげん}を構成^{こうせい}しているんだよ」

「何百種類！？」

「そう。それで、ある個人^{こじん}が持つ^もている細胞^{さいぼう}の数は、何十兆個^{なんじつちようこ}にも
及ぶのさ」

「何十兆個！？」

「そう。それで、それらの細胞^{さいぼう}の1つ1つは、ある決まった役割^{きやくわり}——
何百種類^{なんびやくしゅるい}の中の1つの役割^{やくわり}——を果たすように設定^{せってい}されていて、そ
の設定^{せってい}に基づいて生存^{せいぞん}しているんだ。

——で、まずは、それが細胞レベルだね」

「細胞レベル——」

「そう。それで大切なポイント^{たいせつ}は、1つ1つの細胞^{さいぼう}が個々^{ここ}に生存^{せいぞん}
しているだけではないってことさ」

「——あ！ もしかして、“恵み^{めぐ}やフルーツ^あの与え合い”？」

「そう。その通りだよ。」

それは人間社会レベルの場合と同じなんだ。

循環を担う心臓などを構成する細胞たち

呼吸を担う肺などを構成する細胞たち

運動を担う骨格筋を構成する細胞たち

栄養の供給を担う胃腸などを構成する細胞たち

外界からのバリアを担う皮膚などを構成する細胞たち

血液の浄化を担う腎臓などを構成する細胞たち

ホルモンの分泌を担う下垂体や副腎、性腺などを構成する細胞たち

情報の伝達を担う脳神経などを構成する細胞たち

免疫を担う血液などを構成する細胞たち

…

さまざまな種類の細胞どうしは、互いに恵みやフルーツを与え合
いながら、支え合っているのさ」

「——へえー」

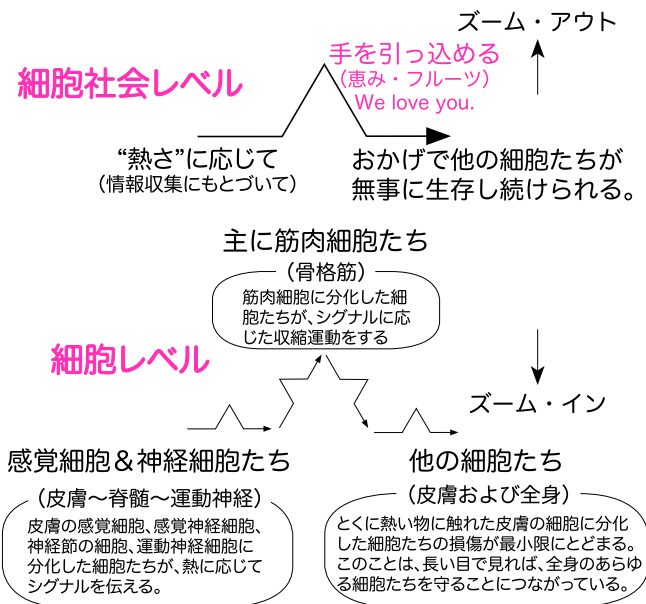
音楽 ♪春 Spring 219 に続く

219

「例えば、一番わかりやすい例の1つは、熱い物に手などがふれた
際に思わず引っ込める“反射”を含む過程だと思うよ。

この反射を含む過程は、細胞社会レベルの3ステップの単純な
例の1つなんだ。

それをプチ・マップで表現すれば、次のようになる——



つまり、ここにあるのは、

『“^{あつ}熱さ”^{じょうほうしゅうしゅう}についての情報収集

→ “^て手を^ひ引っ込^こめると^{うんどう}いう運動”^{めぐ}という恵み・フルーツ^{ていきょう}の提供

→ おかげで^ひ皮膚^ふの^{さいぼう}細胞^{ふく}を含むほかの^{さいぼう}細胞^{せいぞん}たちが^{つづ}生存し^{つづ}続けられる』

という^{さいぼうしゃかい}細胞社会^{レベル}の3ステップなんだよ」

「——そうすると、^{つく}バースデーパンケーキ^{さい}作り^{やけど}の際^{さい}に、あなた^{やけど}が火傷

してしまったことには、それほど^{ふか}深い^{いみ}意味^があったのね」と^{るね}溜音。

「^{みこ}そうそう。それを^{みこ}見越^{やけど}して、あえて^{やけど}火傷^{やけど}してみせたのさ。

って、そんなわけないだろ。アッハッハッ！」

「アハハッ♪」

「細胞社会レベルの3ステップの例を整理すれば、次のようになる。^{にんげんしゃかい}人間社会レベルほど多様^{たよう}じゃないけれど、いろいろある」と僕。



「それにしても、^{さいぼうしゃかい}細胞社会レベルの3ステップって、^{にんげんしゃかい}人間社会し

ベルの3ステップと、よく似ているね」と瑠音。

「そうだね。なんせ、3ステップが自己相似性を持つフラクタルだからね」

「そうすると、これらいずれの細胞社会レベルの3ステップにおいても、お互いがお互いのために、恵みやフルーツを提供し合っているのね？ 人間社会レベルの3ステップの場合と同様に——」

「そうさ。これらの細胞社会レベルのステップにおいても、『For』に相当する『Love』の与え合いの関係——恵み-恵みの関係、フルーツ-フルーツの関係、『For』-『For』の関係、つまり、『Love-Loveの関係』が成立しているのさ」

「アハッ♪ おもしろーい♪」

音楽 ♪春 Spring 221に続く

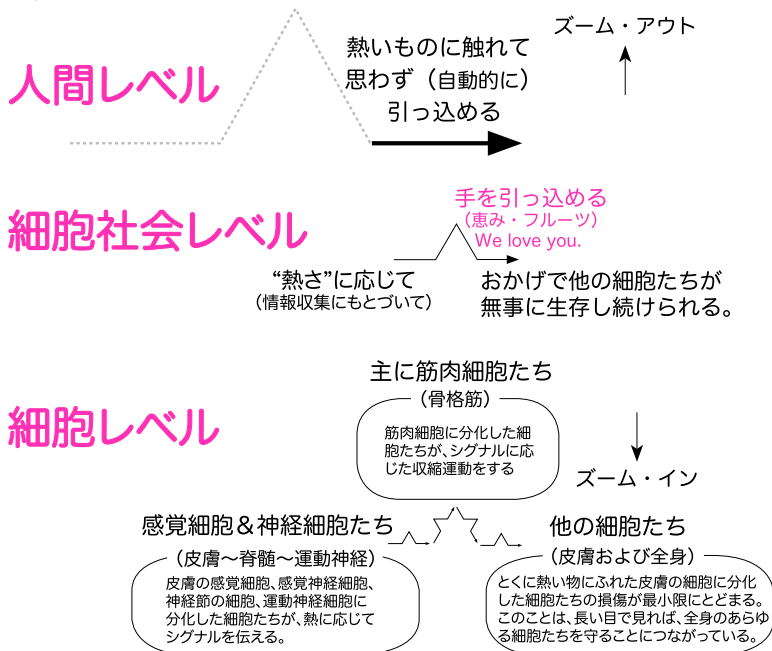
221

「細胞レベルと細胞社会レベルの关系到、人間レベルを考え合わせれば、さらにおもしろいことに気づくことができるよ」と僕。

「——え、どんなこと？」と瑠音。

「うん。やっぱり熱い物に手などがふれたときに思わず引っ込める“反射”を含む過程の例がわかりやすいから、それで説明するよ。

それだと、次のようになるんだ。



この場合、細胞社会レベルの3ステップが、個々の細胞レベルからズーム・アウトして見ると同時に、人間レベルの第3ステップからズーム・インしても見えることになる」

「ふーん。そうすると、この“反射”を含む過程においては——人間レベルの第1ステップと第2ステップ、例えば“認識して、決めて”が省略されていることになるのね？」

「そうなのさ！ このときは、“～しよう”の意志も“～したい”の意欲も関係せずに、いわば自動的に運動している」

「すごい！ これって、もしかして、ほかの“自動的に生じる現象”も、うまく説明できるってことじゃない？」

例えば——

しんぞう たかな
心臓がドキドキ高鳴るとか

こきゅう
呼吸がハアハアはずむとか

しんしん
心身がリラックスするとか

す かんかく かんじょう わ
“好き”という感覚や感情が湧くとか

し よつきゅう わ
“知りたい”という欲求が湧くとか

あ よつきゅう わ
“会いたい”という欲求が湧くとか …」

「そうだね。ほかにも——

あるものを見て、何かのイメージが連想されるとか

“のどが渴いている”という感覚が生ずるとか

“お腹が空いている”という感覚が生ずるとか

イライラして“やけ食いたい”という欲求が生ずるとか

緊張して“トイレに行きたい”という欲求が生ずるとか

暑くて汗をかくとか …

どれも、人間レベルの第1、第2ステップ、“認識して、決めて”

のプロセスが省かれたまま、自動的な細胞社会レベルの働きにもと
づいて生じていると説明できる。

音楽 ♪春 Spring 222 に続く

222

「もちろん、知りたい、会いたい、食べたい、飲みたい、トイレ行
きたい… という欲求が自動的に生じたからといって、必ずしも、す
ぐに実現できるとは限らなくて——」と僕。

「そうよね。状況に応じて—— 今知るのはよそう、今会うのはよ

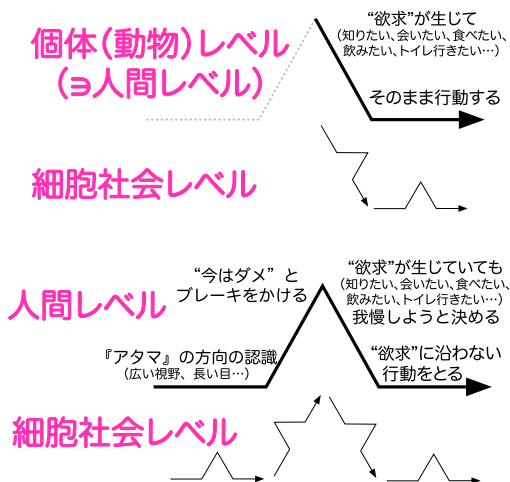
そう、今食べるのはよそう、今は水分摂取を控えよう、今すぐトイレ行くのはよそう…と決めて、実現させない場面も多々あるわよね」と瑠音。

「そうさ。それは行動をコントロールする意志の力のおかげなのさ」

「そうね。個人差があるだろうけれど——動物より人間の方が、そのコントロール力が大きいのは確かよね？」

「そうだね。その差は、広い視野や長い目を含む『アタマ』の方向の認識力の違いを反映しているはずだよ。

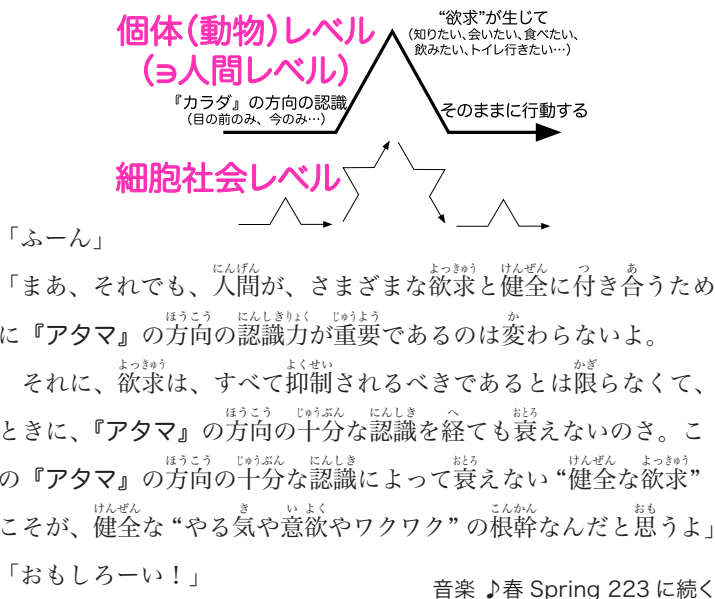
このあたりの違いを図で示せば、例えば、次のようになるよ」



「欲求のままに行動している例では、『アタマ』の方向の認識のステップを担う、人間レベルを含む個体レベルの第1ステップが省略されているのね？」

「そうさ。もちろん、人間も動物も、第1ステップが完全に省略されるのは稀で、実際は『カラダ』の方向の認識のステップが関わっ

ていることが多いと思うよ。——^{ほんのう}本能^{おも}ってやつだね」



223

「そうすると—— “意識してやることと意識せずにやることの関係”についても、うまく説明できるわよね？」 溜音らしい提案がなされた。

「そうなんだよ。できる。——そのための、いい例の1つが“立位の姿勢を保つ”ことだと思うよ」と僕。

「え？ ——どういうこと？」

「うん。そもそも人間は、立った姿勢で料理をしたり、立った姿勢

で本を読んだり、立った姿勢で話したり… わざわざ意識しなくても立ってられる。でも、よく考えてみると、それって不思議でない？ だって、人間の体って、こんなに細長いんだぜ？」

「—あ、言われてみれば、そうかも。 —。 —。 うーん、難しそう」

「ううん。実際は、とてもシンプルさ。

“体が少し前に傾いたら、後ろに戻すように筋肉を収縮させる、体が後ろに傾いたら、前に戻すように筋肉を収縮させる、体が左に傾いたら、右に戻すように筋肉を収縮させる…” ただ、その繰り返しが続いているだけのことなのさ。

人体が立位の姿勢を保つことができるのは、ふつう、そうした微妙な調整が自動的に何度も繰り返され続けているおかげなんだよ」

「—アハッ♪ 言われてみれば、案外、単純かも—」

「だろ？ だから、“意識して立ち続けている”ことも実は可能で、それだと、次のようになるんだ。

“前に傾いた！” → “立て直そう！” → 実際に立て直して→ …

—それをプチ・マップで表現すれば、次のようになる」

次ページ上図

「つまり、人間レベルの3ステップスが成立しているのね。

でも、いちいち、そんなことをしていたら、疲れちゃうよね」

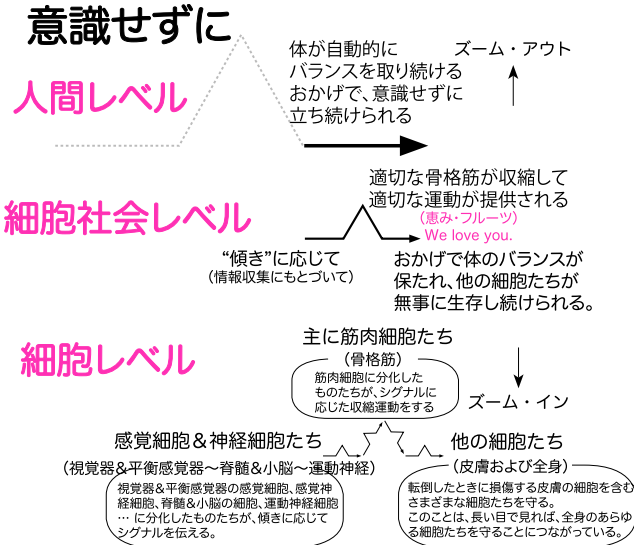
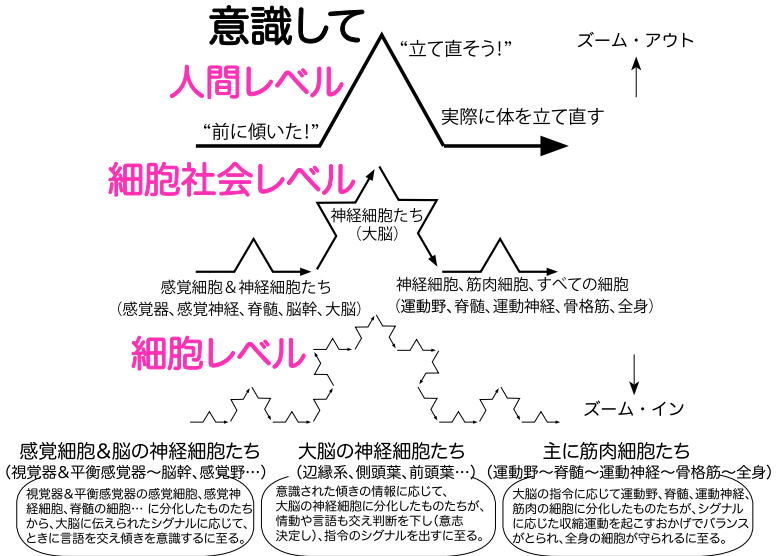
「そう。疲れる。—だから、ふつうは、そうじゃないんだよ」

「—ふつうは？」

「ふつうは、体が自動的にバランスを取り続けてくれる。だから、わざわざ意識しなくても済むし、大して疲れずにも済むのさ。

—それをプチ・マップで表現すれば、次のようになる」

次ページ下図



「つまり、人間レベルの3ステップスが成立していないのね」

「そう。細胞社会レベルの3ステップだけがクルクル成立し続けているのさ」

「——アハッ♪ 意識せずにバランスを取り続ける方は、“省エネ”って感じで、ラクチンね♪」

「そうだね。——で、これが“体で覚えている”ってことなんだ。

この“体で覚えている”ことには、例えば自転車乗りも含まれる。

ぼくらのようなベテランになると、体が自動的にバランスを取ってくれるおかげで、大して意識せずとも自転車は倒れないようになる」

「——だから、自転車に乗りながら、風の心地よさや英単語覚えのほうに意識を向けていられるのね♪」

「その通りさ」

音楽 ♪春 Spring 224 に続く

224

「もちろん、体で覚えていることには、立位の姿勢を保つことや自転車に乗ること以外にも、いろいろある。

ハシやスプーンを使って食べること、歩くことや泳ぐこと、言葉を読むことや字を書くこと、ワープロやパソコンの操作…を含めていろいろ——。

これらは、どれも“自動的にスムーズに”働くような回路が体の中に作られている点で共通しているんだ」と僕。

「——そうすると、体で覚えるためには、繰り返しの練習が重要に

なるのね？」と囁音。

「そうさ。もちろん、それは、頭で覚えるのも一緒だよ」

「——。——あ、そうかあ！

電話番号とか、歴史の年号とか、九九とか、数学の公式とか、英単語とか…何かを暗記する際も繰り返しが大切になるね」

「ああ。つまり、体も頭も、意識して何度も繰り返せば、いつしか、その働きが自動化しうる。

それが体や頭で覚えるということで、いったん覚えてしまえば、余裕ができて、次の新しい学習に意識を向けられるようになる」

「——あっ！ それは、赤ちゃんの発達も、きっと同じよね？ お座りして、ハイハイして、立ち上がって、歩いて、言葉をしゃべって…。はっきりとは記憶に残ってないけど——最初は、そのことに、いっぱい意識を向けていたんだよね？ きっと——」

「ああ、そうだね。初めてのときは、たいてい何だって、意識がたくさん注がれる。でも、いったん体や頭で覚えてしまえば、あまり意識しなくて済むようになる——。

それは、悪く言えば、“飽きるとか、新鮮さがなくなるとか”ってことだけれど——よく言えば、“それだけ余裕が生まれて、次の新しい成長に向けてステップアップできる”ってことなのさ」

「ええ、そうね。——。

——あ！ それはきっと、運動のし方や知識の思い出し方だけじゃないわ。

情緒や情操を含む感じ方のクセも——連想や想像を含む考え方のクセも——発声や言葉の選び方を含む言葉使いのクセも…

—そうよ、男性らしさや女性らしさも！」

「うん。—つまりは、“性格や心とかも、意識して繰り返すこと
で、自分が望むように新しく育める可能性がある”ってことだね？」

「ええ。きっと、そうよ♪」

音楽フェード・アウト ♪春 Spring

225

「ああ、私は、もう満腹よ。もう十分満足。—これなら、どんな
に複雑な“ライフのあり方”も、たった7つのフレームの組み合わ
せだけで、ある程度、説明できそうよね？ アハッ♪」と溜音。

「—うん。文系の立場としては、もう十分かもしれないけれど、
理系の立場としては、まだ物足りないんだ」と僕。

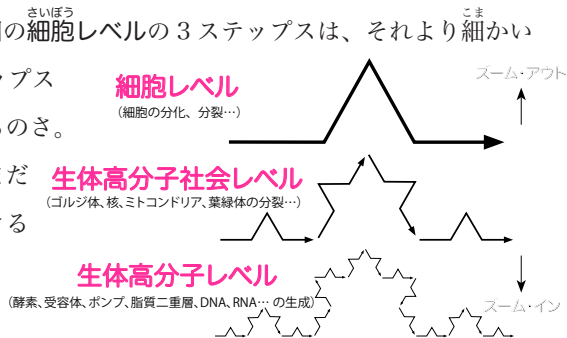
「え？ それって、もしかして—」

「そう。1個1個の細胞レベルの3ステップは、それより細かい
レベルの3ステップ
で支えられているのさ。

つまり、まだまだ
ズーム・インできる
んだ」

「えー!？」

「それは、細胞レベルの3ステップをズーム・インすれば、生体
高分子社会レベルの3ステップが見えて、さらにズーム・イン
すれば、生体高分子レベルの3ステップが見えるってことさ」



「——。生体高分子レベル——」

「そう。この生体高分子レベルの3ステップスより、さらに細かいレベルの3ステップスもあって——」 そう僕が言うと——

「えー！？ まだあ！？」 瑠音は、さらなる驚きの声を上げた。

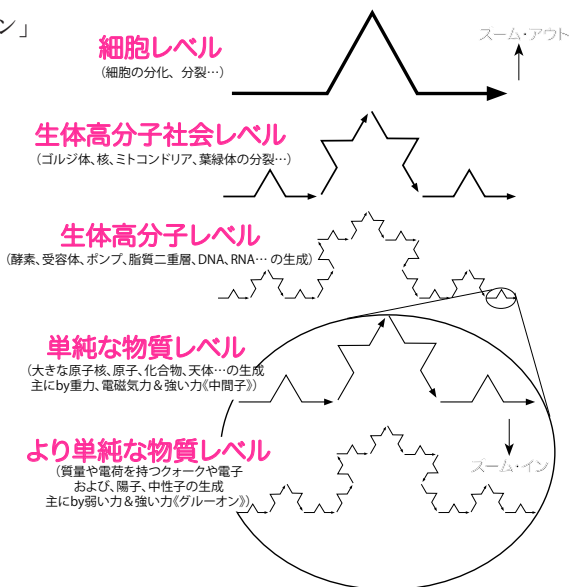
「まだ——。

それが、ついに単純な物質レベルの3ステップスさ。

これは、重力や電磁気力などの“物理的な力”によって、陽子や中性子、電子などの材料から、単純な物質が生成する過程としての、3ステップスなのさ。これは、物理法則に近いよ。

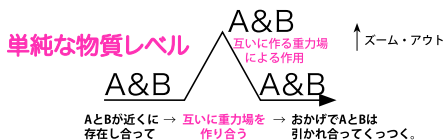
この単純な物質レベルの3ステップスは、生体高分子レベルの3ステップスからズームインして見ると同時に、より単純な物質レベルの3ステップスからズームアウトしても見えるんだ」

「うーん」



226

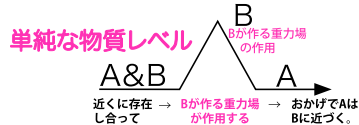
「**単純な物質レベル**の最も**単純な例**の1つは、質量を持つ“**2つの物質** AとB”が重力によって**結びつく過程**さ」と僕。



「**人間社会レベル**の“**結婚**”の例と似ているね？」と留音。

「そう。似ている。何しろ、**フラクタル的**に相似だからね。

だから、**結婚**のときと同じように、次のような**2つの過程**が組み合わさっていると見なすことができる。

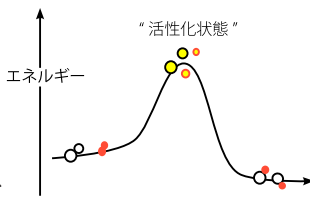


この**重力**がもたらす**過程**は、ごく**単純な例**だけれど、これを組み合わせることで—— **太陽**や**地球**などの**天体**が誕生する**過程**の**根本部分**を説明できる」

「へえー♪ **なんだか、すごいね**」

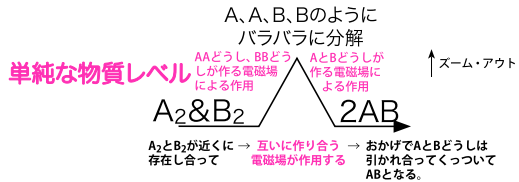
227

「この**単純な物質レベル**の**3ステップ**の例には、前に僕が話した、“**活性化エネルギー**”という**化学反応**が進むかどうかを



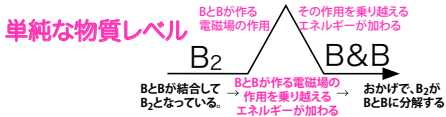
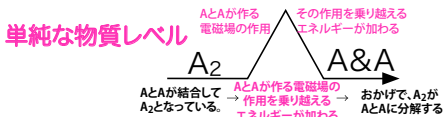
決めるハードルの乗り越えの過程も含まれる。

これを第7フレームを使って示せば、次のようになるよ。



これは、やや複雑だけれど、次のような3つの過程が組み合わ

さっている」と見なせる」
と僕。



「へえー。——と言っても、何となくしか、わからないんだけどね。

フツッ♪」と溜音

「何となくでも十分さ。ここで、これまで挙げた各レベルの3ステッ
プすたちを、全部まとめることができる。

つまり、ここで、ついに、前に君が理想した社会的なハードルと
僕が連想した「活性化エネルギー」に関するハードルが、1つにつ
ながることになるんだよ」



「わたしの^{れんそう}連想とあなたの^{れんそう}連想がつながっている——」

「つながっているのは、化学と人間社会だけじゃないよ。さらには、
君が得意な文系の^{か がく}人文学、^{にんげんしやかい}教育学、^{しんりがく}心理学とも、僕が得意な理系の^{ぼく とく い}ライフサイエンス、^{せいりがく}生理学、^{ぶんしせいぶつがく}分子生物学とも、ニュートン君——^{くん}心^{ここ}
笑君が得意な^{えくん とく い}物理学とも、つながっていることを意味しているのさ」

「へえー！」

228

「ポイントは、各レベルの3ステップスが、ズーム・インするかズーム・アウトするかに応じて見える側面であるってことなんだ」と僕。

「——え？ じゃさあ、物質現象だけでなく、生命現象も、人間のふるまいも、人間社会の営みも… どれもすべて、結局、物理的な力だけで、あるいは、物理法則だけで、すべて説明できてしまうということ？」 瑠音が素朴な疑問を投げ掛けた。

「でも、実際は説明できないよね？」

「ええ、そうね。 なんだか不思議——」

「僕も最初は不思議に思ったさ。でも、OK なんだよ」

「どういうこと？」

「うん。もちろん、生体高分子レベルのライフ、生体高分子社会レベルのライフ、細胞レベルのライフ、細胞社会レベルのライフ、人間レベルのライフ、人間社会レベルのライフ… は、どれも、重力や電磁気力などの物理的な力や、それらの力の働き方を示す物理法則で説明できるという一側面を持っているよ。

例えば“ニュートンの万有引力の法則で示されるような重力が地上のあらゆる生物においても働いているおかげで、地上の生物の暮らしが成立している”とか“クーロンの法則で示されるような電磁気力が地上のあらゆるライフにおいても働いているおかげで、化学反応が進んで生命の営みが成立できている”とかって具合にね」

「——ええ、そうね」

「それで、各レベルのライフは、物理的な力の働き方を示す物理法則を含む、単純な物質レベルの3ステップスが担う自然法則のおかげ

げで誕生している一方で、同時に、別のレベルの3ステップスが担う、別のレベルの自然法則のおかげでも誕生しているんだ」

「別のレベルの自然法則——」

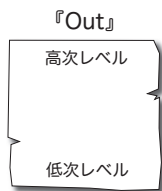
「そう。それが、ほかならぬ、単純な物質レベルからズーム・アウトすることで見える高次レベルの3ステップスが担っている決まった流れのことで」

「つまり、ズーム・アウトすることで見える高次レベルの3ステップスが担っている決まった流れとしての新たな自然法則が、各レベルのライフを誕生させているから、各レベルのライフは、単純な物質レベルの3ステップスだけでも、それを支えている物理的な力や力の働き方を示す物理法則だけでも説明できなくなるのね？」

「その通りだよ。」

自然法則であるところの、3ステップスが担っている決まった流れとは、“この条件では、ほかでもなくこうなる”のような流れのことだよ。

ズーム・アウトすることで見える高次レベルとは、第4フレーム『In Out』における『Out』の方向のレベルのことだよ」



「——ウン。何となく、わかるような気がする——」

「歴史的な全体像を見ると、よりわかりやすくなるかも——」

「歴史？」

「歴史と言っても、百何十億年の歴史」

「百何十億年！？」

229

音楽イン ♪ Birthtime

「^{いま}今から、^{ひゃくなんじゅうおくねん いじょう まえ}百何十億年以上も前に、^{うちゅう}この宇宙が生まれた。

その^{さい}際に、^{じくう こうぞう}時空の構造が成熟する過程を経ながら、^{うちゅう}この宇宙において、^{ぶつり てき じょうけん}物理的な“この条件ならば、こうなる”のような決まった流れ、^{ぶつり ほうそく ちか しぜんほうそく せいりつ}物理法則に近い自然法則が成立した。

この物質の生成過程に相当する3ステップスが担う自然法則は、^{ぶつしつ こうぞう かたち たんじょう}さまざまな物質の構造——形を誕生させた。

より^{たんじゆん ぶつしつ}単純な物質レベルの3ステップスが担う自然法則が誕生させた存在が——

^{ぶつしつ ゆうい でんし}物質優位の、電子やクォークであり

^{ようし ちゆうせいし}陽子や中性子であった。

それらが^{ささ あ う}支え合って生まれた、より^{こうじ たんじゆん ぶつしつ}高次の単純な物質レベルの3ステップスが担う自然法則が誕生させた存在が——

^{げん し かく}原子核であり

^{すい そ かる げん そ}水素、ヘリウム… などの軽い元素であり

^{こうせい}恒星であり

^{たん そ ちつ そ さん そ てつ おも げん そ}炭素、窒素、酸素、鉄… などの重い元素であり

^{せいうん}星雲であり

^{ちい てんたい}小さな天体であり

^{たいよう ちきゅう}太陽や地球であった。

^{たんじょう ま ちきゅうじょう ぶつしつ せんざい}誕生して間もない地球上には物質だけが存在していた。

この物理法則に相当する3ステップスが担う自然法則は、^{ちきゅうじょう}地球上

に、ある程度、多様な自然、多様な物質の構造——形を誕生させた。

※例えば、アンモニア、メタン、二酸化炭素、水分子、アミノ酸、リン酸、脂質などの単純な分子、および、雲のモクモク、雪の結晶、海岸線のギザギザ、合流を繰り返す川のクネクネ、山のデコボコ、火山噴火、マントルの対流、移動する大陸、岩石、海、雷、雨、小石、風…を誕生させた。



多様な物質たちが支え合って生まれた、生体高分子レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な生体高分子構造——形を誕生させた。

※例えば、タンパク質（酵素、ポンプ、受容体…）、脂質二重層、RNA、DNA…を誕生させた。



多様な生体高分子レベルのライフたちが支え合って生まれた、生体高分子社会レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な生体高分子社会形態——形を誕生させた。

※例えば、触媒タンパク質が連携する代謝系とリン脂質二重層によって形成された細胞膜などが協力しあっている原始生命、原核生物（細菌や古細菌）…を誕生させた。

※とりわけ、“RNAやDNA”を使うさまざまな生体高分子レベルのライフが支え合ったことは、生体高分子社会レベルの3ステップが担う自然法則を世代を越えてより確実に伝えることを可能にした。

この自然法則は、より迅速に書き換わりえた。

→新たな生体高分子社会形態——形が、より迅速に誕生するようになった。

その結果、生体高分子社会レベルのライフのみならず、生体高分子レベルのライフの、より迅速な進化が可能になった。



多様な生体高分子社会レベルのライフたちが支え合って生まれた、複雑な(真核)細胞レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な細胞構造——形を誕生させた。

※例えば、(ミトコンドリア、葉緑体の起源となった)原核生物たちの共生によって生まれた、核を持つ、複雑で多様な真核細胞を誕生させた。

※真核細胞は、さまざまな条件に応じた“分化&分裂”を達成できるようになった。有性生殖が始まると、細胞レベルの3ステップが担う自然法則の書き換え効率はさらに上がった。



多様な細胞レベルのライフたちが支え合って生まれた、細胞社会レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な細胞社会形態——形を誕生させた。

※例えば、細胞間のコミュニケーションおよび細胞の“分化&分裂”の連携プレーの成熟により、単純な多細胞生物(エディアカラ生物群)を誕生させた。



多様な細胞社会レベルのライフたちが支え合って生まれた、(複雑な)個体レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な複雑な個体形態——形を誕生させた。

※例えば、目を持つ、カンブリア紀の生物(節足動物…)、のちの脊椎動物(魚類、両生類、は虫類、鳥類、ほ乳類《霊長目…》)を誕生させた。



多様な^{たよう}個体^{こたい}レベル^{れいぶる}のライフ^{らいうふ}たちが^{ささあう}支え合^あって^う生まれた^う、^{こたいしゃかい}個体社会^{こたいしゃかい}レベル^{れいぶる}のライフ^{らいうふ}の生成^{せいせい}過程^{かてい}に相当^{そうとう}する、より^{こうじ}高次^{こうじ}レベル^{れいぶる}の3^{さん}ステップ^{すてっぷ}スが担^{にな}う自然^{しぜん}法^{ほう}則^{そく}は、さらなる^{たよう}多様^{たよう}な自然^{しぜん}、多様^{たよう}な個体^{こたい}社会^{しゃかい}形態^{けいぎ}——^{かたち}形^{かたち}を誕生^{たんじょう}させた。

※例えば、^{たと}個体^{こたい}間^{かん}の^{せいじやく}コミュニケーション^{こみゆにけいしん}の^{かくしゆ}成熟^{こたうじゆ}により、^{こたいしゃかい}各種^{かんしゆ}の^{たんじょう}個体^{こたい}社会^{しゃかい}を誕生^{たんじょう}させた。

※とりわけ、^{せんれん}洗練^{せんれん}された^{げんご}言語^{げんご}（^{おんせいげんご}音声^{おんせいげんご}言語^{げんご} & ^{もじ}文字^{もじ}）を^{つか}使う^{つか}さまざまな^{にんげん}人間^{にんげん}レベル^{れいぶる}のライフ^{らいうふ}が^{ささあ}支え合^あったことは、^{にんげんしゃかい}人間^{にんげん}社会^{しゃかい}レベル^{れいぶる}の3^{さん}ステップ^{すてっぷ}スが担^{にな}う自然^{しぜん}法^{ほう}則^{そく}（^{ぶんめい}文明^{ぶんめい}や^{ぶんか}文化^{ぶんか}…）を、^{ねんれい}年齢^{ねんれい}や^{せだい}世代^{せだい}、^{ちいき}地域^{ちいき}を越^こえて、より^{かくじつ}確実^{かくじつ}に^{つた}伝える^{つた}ことを^か可能^かにした。

この自然^{しぜん}法^{ほう}則^{そく}は、より^{じんそく}迅速^{じんそく}に^か書き換^かわりえた。
→^{あら}新たな^{あら}機能^{きんねん}を持つ^{もつ}ライフ^{らいうふ}スタイル^{すたいる}、^{あら}新たな^{あら}機能^{きんねん}を持つ^{もつ}人間^{にんげん}社会^{しゃかい}形態^{けいぎ}——^{かたち}形^{かたち}が、より^{じんそく}迅速^{じんそく}に誕生^{たんじょう}するようになった。

その^{げつ}結果^{げつ}、^{にんげんしゃかい}人間^{にんげん}社会^{しゃかい}レベル^{れいぶる}のライフ^{らいうふ}のみならず、^{にんげん}人間^{にんげん}レベル^{れいぶる}のライフ^{らいうふ}の、より^{じんそく}迅速^{じんそく}な^{はってん}発展^{はってん}や^{せいじやく}成熟^{せいじやく}が可能^かになった。」

音楽フェード・アウト ♪ Birthtime

230

ザブーン、ザザザシュー…

なぜか、心^{こころ}の中^{なか}に、夏^{なつ}の海^{うみ}の波^{なみ}の音^{おと}が響^{ひび}き渡^{わた}っていた。

「3^{さん}ステップ^{すてっぷ}スって、どれも^{しぜんほうそく}自然^{しぜん}法^{ほう}則^{そく}を担^{にな}っていたのね」と^{るね}溜音^{るね}。

「そうさ、^{ていじ}低次^{ていじ}の3^{さん}ステップ^{すてっぷ}スが^{ぶつりほうそく}物理^{ぶつり}法^{ほう}則^{そく}に近い^{ちか}自然^{しぜん}法^{ほう}則^{そく}を担^{にな}っていたし、^{こうじ}高次^{こうじ}の3^{さん}ステップ^{すてっぷ}スが^{ほうそく}ライフ^{らいうふ}法^{ほう}則^{そく}としての^{しぜんほうそく}自然^{しぜん}法^{ほう}則^{そく}を担^{にな}っていた——。自然^{しぜん}法^{ほう}則^{そく}も、^{ぼく}フラクタル^{ぼく}だったのさ」と僕^{ぼく}。

「さまざまな物質だけでなく、さまざまなライフも、自然法則のおかげで誕生できた存在だったのね」

「そうだね。“この条件ならば、こうなる”のような決まった流れは、さまざまなライフにもあって、このライフ法則としての自然法則のおかげで、さまざまなライフが誕生できたのさ。

しかも、低次元レベルの3ステップに支えられる“物理法則に近い自然法則”の生む自然が、比較的単純であり続けるのに対して、高次元レベルの3ステップに支えられる“ライフ法則としての自然法則”の生む自然——ライフ形態、個体形態、社会形態…は、どこまでも複雑多様になりうる」

「だから、ライフは、物理法則だけで説明できなくなるのね」

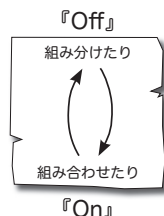
「そうさ。さらに、DNAや言葉などを利用するライフの場合は、自然法則を迅速に書き換えることで、新しい形、すなわち、新しいライフを迅速に誕生させることができるから、ますます、決まりきっている物理法則だけでは説明できなくなる」

「——アハッ♪」

このライフにおける自然法則の書き換えの話は、高3の夏のとき海辺での『“組み合わせたり組み分けたり”が繰り返されるおかげで、あらゆる新しい存在が創造されるのだろう』という話と関係あるかしら？」

「大ありだよ。やっぱり、DNAや言葉などを利用した自然法則の書き換えも、まさに“組み合わせたり組み分けたり”の繰り返しの例に相当しているから。

ただ、『“組み合わせたり組み分けたり”が繰り返されるおかげで、



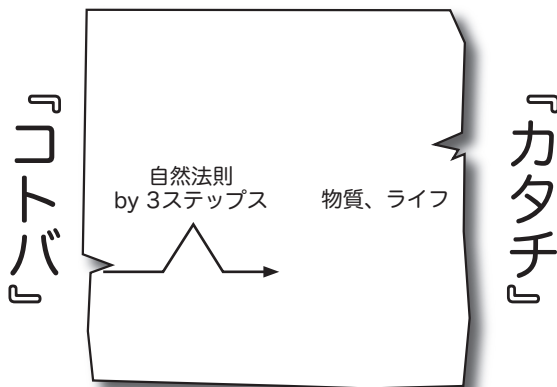
あらゆる新しい存在が創造されるのだろう』という話は、ライフにおける自然法則の書き換えだけに限らず、もっと普遍的なことだよ。

例えば、決まりきっている物理法則という自然法則のもとで、唯一無二の地球という天体が誕生したのも、“組み合わせたり組み分けたり”の繰り返しののおかげだから。それは、太陽や月も同じ——」

「あ、そうか——」

「いずれにしても、次のようなことも言える。

自然法則 by 3ステップスが『コトバ』の方向にあるなら、その所産、物質、ライフそのものが『カタチ』の方向にあるということも——。



つまり、『カタチ コトバ』のフレームは、より単純な物質レベル～単純な物質レベルの物質から、生体高分子レベル～人間社会レベルのライフまで、広く適用できるのさ」

「へえー！」

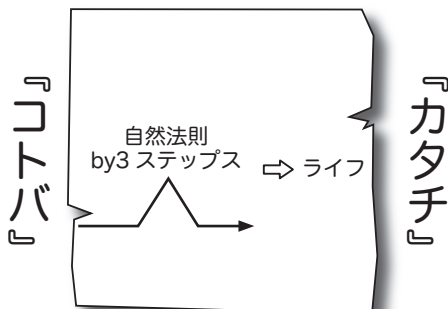
231

ザブーン、ザザザシュー …

相変わらず、夏の海の心地よい波の音が心の中に響き渡っていた。

「つまり、生体高分子レベルのライフ、生体高分子社会レベルのライフ、細胞レベルのライフ、細胞社会レベルのライフ、人間レベルのライフ、人間社会レベルのライフ、いずれのライフも、3ステップという生成過程を経て誕生していることは、『コトバ』の方向の“自然法則 by 3ステップ”をベースにして、ライフという『カタチ』の方向の存在が誕生しているから見なせるのさ。

まあ、これがライフの本質の1つだね」と僕。



「— 1つということは、ほかにもあるの？」と瑠音。

「ある。もう1つの本質は、『カラダ アタマ』のフレームを“ミクロの生体高分子レベルのライフからマクロの人間社会レベルのライフまで”適用すると見えるんだよ」

「へえー。どんな本質なの？」

「それぞれのレベルのライフは、自身を支える重要な部分、すなわ

ち、『アタマ』の^{ほうこう}方向の^{ぶぶん}部分を持^もっているという^{ほんしつ}本質さ」

「——ウ～ン」

「^{ぐたいてき}具体的に^み見ると^{つぎ}次のようになる」

ライフ	『カラダ』	『アタマ』
生体高分子レベル	1つの生体高分子	活性中心 (=生体高分子レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の分子のセット〉 ※特に、酵素の活性中心
生体高分子社会レベル	生体高分子の集合体	遺伝子発現回路 (=生体高分子社会レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“生体高分子レベルのライフ”のセット〉 ※特に、RNA、DNA、調節タンパク質…を含む遺伝子発現回路
細胞レベル	1つの細胞体	細胞核 (=細胞レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“生体高分子社会レベルのライフ”のセット〉 ※特に、分化や増殖(細胞サイクル)を支える遺伝子発現回路を含む細胞核
細胞社会レベル	細胞の集合体	神経中枢 (=細胞社会レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“細胞レベルのライフ”のセット〉 ※特に、脊髄の反射中枢、脳幹の神経核(呼吸中枢…)、自律神経節、小脳、大脳基底核、辺縁系、脳下垂体、大脳皮質の各葉(前頭葉、側頭葉、後頭葉…)…を含む神経中枢
人間レベル	1つの人体	脳頭《脳神経系》 (=人間レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“細胞社会レベルのライフ”のセット〉 ※特に、感覚、感情、思考、想像、言語、知恵、学習、判断、ユーモア、意志・意欲、ひらめき、創意工夫、創造性、行動…を含む働きをする頭脳
人間社会レベル	人間の集合体	先導的な存在《リーダー》 (=人間社会レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“人間レベルのライフ”のセット〉 ※特に、元首、首長、司法官、立法官、行政官、経営者、資本家、アーティスト、技術者、学者、作家、メディア…を含むリーダー

「ウン—— 何となくわかるような、わからないような——」

「うん。まず、生体高分子レベルのライフについて見てみるよ。

この生体高分子レベルのライフを支える重要な部分は、一部の分子のセット——特に、酵素の活性中心だよ。この部分は、もし損なわれてしまえば、“タンパク質やRNA”などの酵素としての働きが失われて、生体高分子レベルのライフが失われてしまう—— それほど重要な部分なんだよ」

「——ウン」

「生体高分子社会レベルのライフを支える重要な部分は、一部の“生体高分子レベルのライフ”のセット——特に、RNA、DNA、調節タンパク質…を含む遺伝子発現回路だよ。この部分は、もし損なわれてしまえば、“タンパク質の合成”や“DNAの合成”に基づく発現や複製が達成できなくなって、生体高分子社会レベルのライフが失われてしまう—— それほど重要な部分なんだよ」

「——ウン」

「細胞レベルのライフを支える重要な部分は、細胞核、一部の“生体高分子社会レベルのライフ”のセット——特に分化や増殖を決める遺伝子発現回路を含む細胞核だよ。

この細胞核は、もし損なわれてしまえば、“細胞の機能や構造を決める分化”や“細胞数をほどよく保つような増殖”が達成できなくなって、細胞レベルのライフが失われてしまう—— それほど重要な部分なんだよ」

「——ウン」

「細胞社会レベルのライフを支える重要な部分は、神経中枢、一部

の“細胞レベルのライフ”のセット——特に神経節や神経核…を含む神経中枢だよ。この神経中枢は、もし損なわれてしまえば、例えば、無意識の呼吸や反射的な運動が達成できなくなって細胞社会レベルのライフ、例えば、植物状態の人体のライフが失われてしまう——それほど重要な部分なんだよ」

「——うん」

「人間レベルのライフを支える重要な部分は、頭脳、一部の“細胞社会レベルのライフ”のセット——特に、感覚、感情、思考、想像、言語、知恵、学習、判断、創意工夫、行動…を含む働きをする頭脳さ。

この頭脳のさまざまな働きのおかげで、例えば、どうすれば食糧を得られるか、どうすれば危険な動植物を回避できるか、どうすれば衣類によって体温を調節できるかを考えて対応できたり、煙や水を間違つて吸い込まないようにするために、あるいは、声を出して助けを求めるために呼吸をコントロールできたり、どうやって気持ちや思いを相手に伝えるかを考えて表現できたりする。

だから、この頭脳は、もし損なわれてしまえば、食糧調達、安全保障、体温調節、呼吸の調節、コミュニケーション…が達成できなくなって、人間レベルのライフが失われてしまう——それほど重要な部分なんだよ。

もちろん、頭脳は、どうすれば仲間に貢献できるかを思考するためにも、すぐれたアイデアや有効なツールをタイムリーに創造するためにも、衝動や感情をコントロールしながら情緒を育むためにも役立つわけで——」

「単に生きのびるためだけでなく、よりよく生きるためにも、重要な部分なのね」

「そうだね」

「——じゃあ、次の、人間社会レベルのライフを支える重要な部分
は？」と彼女が尋ねた。

「それは、人間社会レベルのライフの中の先導的な存在、一部の
“人間レベルのライフ”のセット——特に、元首、首長、司法官、立
法官、行政官、経営者、資本家、アーティスト、技術者、学者、作
家、メディア…を含むリーダーだよ。

だから、この人間社会レベルのライフの中の先導的な存在は、も
し損なわれてしまえば、人間社会レベルのライフの安全、安定、成
長、発展、成熟が達成できなくなって、人間社会レベルのライフが
失われてしまう——それほど重要な部分なんだよ」

「ええ、そうね」

「これらのように生体高分子レベルのライフ、生体高分子社会レベル
のライフ、細胞レベルのライフ、細胞社会レベル
のライフ、人間レベルのライフ、人間社会のライ
フは、それぞれ重要な部分のおかげで保たれている。

つまり、それぞれのレベルのライフの全体が、
それらを保つ重要な部分のおかげの存在であること
が、もう1つのライフの本質なのさ」

「ふーん」

「——ところで、ライフを保つ重要な部分が機能
する過程は、第7フレームの第1ステップから
第2ステップに相当しているから、次のように
示せる。

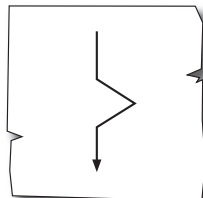
『アタマ』

ライフを保つ重要部分

ライフの全体

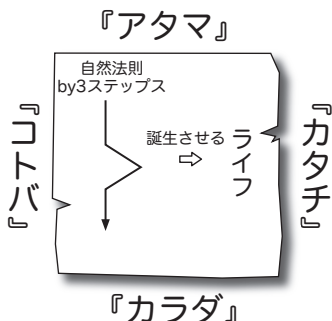
『カラダ』

『アタマ』



『カラダ』

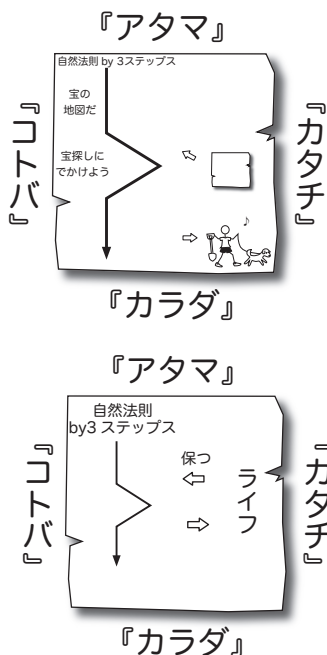
だから、ライフの誕生は、**厳密**
には、『カタチ コトバ』の枠に
『カラダ アタマ』の枠も交えて、
次のように示せたことになる。



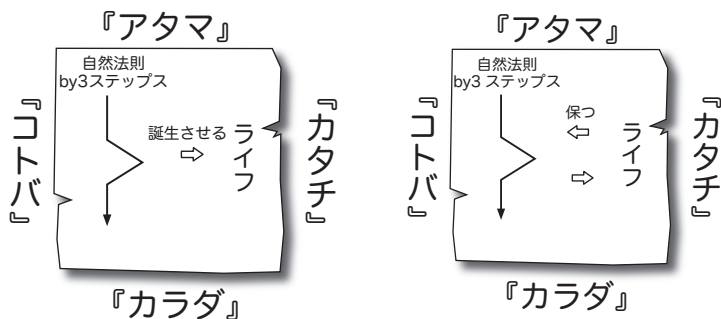
例えば、**細胞**レベルのライフから**細胞社会**レベルのライフが誕生
する過程、**細胞社会**レベルのライフから**個体**レベルのライフが誕生
する過程、**人間**レベルのライフから**人間社会**レベルのライフが誕生
する過程は、いずれも、『カタチ コトバ』と『カラダ アタマ』
の両方の枠の上で繰り広げられていたことになる」

「——うん」

「一方、例えば、“お腹が空いた”から
“何かを食べよう”と決めて実際に
食べる過程、“寒い”から“厚着し
よう”と決めて実際に厚着する過程、
“宝の地図だ”から“宝探しに行こう”
と決めて実際に宝探しに行く過程…
を含むライフを保持する過程につい
ても、『カタチ コトバ』と『カラダ
アタマ』の両方の枠の上で繰り広げ
られていたと示せる。
双方向であるという違いはあるけ
れど——」



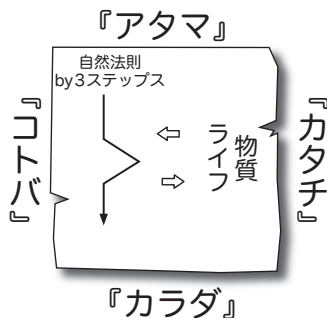
「だから、ライフの^{たんじょう}誕生も、^{たんじょう}誕生したライフの^{ほじ}保持も、『カタチ コトバ カラダ アタマ』のすべてのおかげだったことになる。



つまり、『コトバ』の^{ほうこう}方向の“^{しぜんほうそく}自然法則 by 3ステップス”をベースにしてライフという『カタチ』の^{ほうこう}方向の^{じつざい}実在が^{たんじょう}誕生したと見なせる本質と、それぞれのレベルのライフが^{じしん}自身を支える『アタマ』の^{ほうこう}方向の^{じゅうようぶぶん}重要部分を持っているという本質、^{ほんしつ}両方の本質のおかげで、ライフの^{たんじょう}誕生も、^{たんじょう}誕生したライフの^{ほじ}保持も成立していたのさ。

しかも、この^{せつめい}説明は、ライフだけでなく、^{ぶつしつ}物質——^{ぶつりがく}物理学や^{かがく}化学が^{あつか}扱う^{たいしゅう}対象にも^{おうよう}応用できる。

第7フレームの^{だい}第1ステップから^{だい}第2ステップまでが『アタマ』の^{ほうこう}方向にあって、^{だい}第3ステップが『カラダ』の^{ほうこう}方向にあると見なせるから——」



232

瑠音は興奮気味に話した。「すごいじゃない！ ついにナゾが解けたじゃない！

きつと、これらこそが探し求めた“究極の意味”よね？

マクロの社会現象も、等身大の人生現象も、頭脳の思考現象も、心身の感情現象も、身体の生理現象も、ミクロの生命現象も… それに、これらのライフ現象だけでなく、物理学や化学が扱う物質現象も——

社会科学も人文科学も自然科学も——

つまりは、文も理も、共通の土台の上で説明できるんですもの。

すごいことよ。きつと大発見よ！ 早く世の中に発表しましょうよ！」

「——。——本当に、これらだけでいいのだろうか？」と僕。

「え？ ——どうして？」

「だって—— まだ何かが足りないような気がするんだ」

「——え？」

「知識アップだけでなく、やっぱり知恵アップやフルーツ育てにも貢献したいんだ。“世の中のものみんなのためになって、みんなが満足できるフルーツ”のような、おいしさにつなげたいんだ。

——山は越えたから、あとは、もうちょいさ」

「うん♪」

233

その日の晩、自分のアパートのベッドの上で仰向けになりながら、あれこれ思いめぐらせた。

これまでは、第7フレームに加え――

第1フレーム『カタチ コトバ カラダ アタマ』のすべて、

第2フレーム『カコ イマ ミライ』の中の『カコ』、

第3フレーム『→』、

第4フレーム『In Out』、

第6フレーム『Off On』を利用した考察が、メインだった。

知恵アップやフルーツ育てにつながることを考えるためには、きっと、第5フレーム『Against For』の中の『For』、および、第2フレーム『カコ イマ ミライ』の中の『イマ』や『ミライ』が、より大事になるだろう。

『イマ』――

音楽イン ♪冬 Winter

自然破壊の問題

環境汚染の問題

極端な気候変動の問題

種の絶滅の問題

さまざまな闘争の問題

...

いろいろな問題が、人間社会レベルのライフ、人間レベルのライフを含む全人類の前に山積みになっている。

それでは、『ミライ』はどうなるのだろうか？

はたして、人間社会レベルのライフ、人間レベルのライフを含む
全人類は、このまま長く存続できるのだろうか？

それとも——

・・・

いま、みんなのために何ができるのだろうか？

・・・

そして——

ふと、瑠音との会話で登場した“かわいたちくん”ことを思い出
したんだ。

ニホン・カワウソ——

絶滅したと言われている彼ら彼女ら——

・・・

さらに、ランプベリーのことも思い出した。

ランプベリーとともに過ごした幸せな日々——。

ランプベリーのおかげで楽しさが増した思い出たち——。

ランプベリー

・・・

さらに、コンパス一家のことも思い出した。

あの出会いは、いったい、何だったのだろうか？

あの出会いは、何を意味していたのだろうか？

彼ら彼女らは、いったい何者たちだったのだろうか？

．．．

—あっ！

そのとき、ハッとしたんだ。

—そうだ！ ^{けっきょく}結局、^{にんげんしゃかい}人間社会レベルのライフまでしか僕は見て
いなかったんじゃないか？

—もし、^{ちきゅうじょう}地球上のあらゆる^{いもの}生き物たちを含む、すべてのライフ
を“^{しんか}進化の^{さいぜんせん}最前線”と見なしたら、どうなるだろう？

ほかの^{いもの}生き物たち、ほかの^{しゅ}種も視野に入れることで^{はじめて}初めて見える
^{なに}何か。^{にんげんしゃかい}人間社会レベルよりも、さらにズーム・アウトすることで
^{はじめて}初めて見える何か。…

それらも、きっと、あるはずだ！

この^{ほうこう}方向づけは、^{かんが}考えが^か加速的に^{ふか}深まるきっかけとなった。

それなりの^{せい}成果へと^{じゆく}熟すまで、^{じかん}時間はあまりかからなかった。

音楽終了 ♪冬 Winter

7つのワクワク枠 / The 7 Frames For Life

みんなのコンパス②

第7フレーム

『  』

【完】